

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010010

政策目標	3 のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12 学校教育の充実	事業優先度	A	
単位施策	1 小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	言語治療児童援助事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	5 保健福祉課	
事業指標	ことばの発達障害と診断された児童の早期治療による解消		#N/A	
事業目標	障害者数 0人	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	新入学児童における、ことばの発達障害の早期治療に係る治療の場の確保と通級費の負担軽減	通級費助成 広域市町村負担	通級費助成 広域市町村負担	通級費助成 広域市町村負担	通級費助成 広域市町村負担	通級費助成 広域市町村負担
	通級に係る交通費の助成 広域市町村による「ことばの教室」運営費の負担					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	1,532	350	393	263	263
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債 その他	0				
一般財源	1,532	350	393	263	263	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,036	328	254	142	142
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債 その他	0				
一般財源	1,036	328	254	142	142	
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】	ことばの発達障害児の通級に係る交通費の助成 ・小学校児童 8人 広域市町村による「ことばの教室」運営費の負担 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	ことばの発達障害児の通級に係る交通費の助成 ・小学校児童 4人 広域市町村による「ことばの教室」運営費の負担 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	ことばの発達障害児の通級に係る交通費の助成 ・小学校児童 2人 広域市町村による「ことばの教室」運営費の負担 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	ことばの発達障害児の通級に係る交通費の助成 ・小学校児童 1人 広域市町村による「ことばの教室」運営費の負担 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	ことばの発達障害児の通級に係る交通費の助成 ・小学校児童 3人 広域市町村による「ことばの教室」運営費の負担 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	0人	0人	0人	0人
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	94%	65%	54%	65%
	全体達成率	21%	38%	47%	58%	68%
	備考欄					

事業名	言語治療児童援助事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・保護者等	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	通級を要する児童の把握及び交通費の助成	
【抱える課題やニーズは】	ことばの発達障がい等は、早期治療が有効であるため、治療を要する児童、保護者に対して広域で紋別市に設置している言語治療学級への通級を促進し、通級に要する経済負担の支援を行うとともに、言語治療学級を運営するための負担も行う必要がある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	ことばの発達障がいをもつ児童の早期治療及び言語治療学級の運営の維持を図る。	① 通級を要する児童把握	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	正しい発音、表現力、理解力を高め、児童の健全な育成に繋がる。		目標値	100%
		実績値	100%	
		達成度	100.0%	
		② 通級を要する児童の交通費助成	目標年度	平成29年度
			目標値	3人
			実績値	3人
		達成度	100.0%	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	通級に要する交通費の助成	西紋別地区言語治療学級からの通級証明に基づく、通級児童の交通費(バス往復料金×通級月数)を支給しています。		
	西紋別地区言語治療学級の運営費の負担	西紋別地区市町村において運営費を負担しています。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	保護者負担の軽減及び個々の児童がより良い学校生活を送るための経済支援として、通級費助成は必要であり、専門治療機関の設置を維持するために運営費の負担も必要であると判断します。
必要/概ね必要	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	言語治療学級の設置を維持することができ、ことばの発達障がいをもつ児童の早期発見、治療を行うことができていると判断します。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	言語治療については、西紋5市町村の広域実施により、効率的な事業実施が行われていると判断します。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	言葉の発達障がいをもつ児童、保護者に対し、言語治療の機会が等しく確保されているので公平性が保たれていると判断します。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A	
	ことばの発達障がいをもつ児童の保護者に対する経済支援を行うとともに、早期発見、治療等により、児童の学校生活の充実に向けて、計画どおり事業が進んでいます。	

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
		障がいの程度は児童により異なることから、専門意見のある言語治療学級を維持するための支援、通級児童の保護者に対する経済支援等、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010030

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	語学指導を行う外国青年招致事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	配置人数			#N/A		
事業目標	1名		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
住民参加	無		関係例規・法令名	有 語学指導等を行う外国青年就業規則		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	外国語教育の充実に向けた語学指導を行う外国青年招致(人件費・車両維持費等)	外国青年招致(2年目)	外国青年招致(3年目)	外国青年招致(4年目)	外国青年招致(5年度)	外国青年招致(初年度)
	事業費(千円)	27,503	5,185	5,696	5,600	5,780
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	93	17	19	21	19
一般財源	27,410	5,168	5,677	5,579	5,761	5,225
実 績 事 業 費	事業費(千円)	24,891	4,617	4,962	4,938	5,239
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	65		19	19	16	11
一般財源	24,826	4,617	4,943	4,919	5,223	5,124
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		外国語教育充実に向けた語学指導を行う外国青年招致	外国語教育充実に向けた語学指導を行う外国青年招致	外国語教育充実に向けた語学指導を行う外国青年招致	外国語教育充実に向けた語学指導を行う外国青年招致
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	1人	1人	1人	1人
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	89%	87%	88%	91%
	全体達成率	17%	35%	53%	72%	
	備考欄					

事業名	語学指導を行う外国青年招致事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	招致人数								
【抱える課題やニーズは】	英語を話す外国人に接する機会が少ないため、英語教育への関心が低く、児童生徒の国際コミュニケーション力が不足している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	外国人青年を誘致することにより、外国語教育の充実を図る。	① 招致人数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	1人	実績値	1人	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	1人										
実績値	1人										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	児童・生徒が外国語を身近に感じることによって、国際感覚に富んだ人材を育成する。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	JETプログラムによる外国語指導助手(ALT)の招致 小中学校・高等学校等における英語授業の実施	北海道知事政策部知事室国際課、自治体国際化協会との連携により外国語指導助手を1名招致しています。 年度当初に各学校からの要望に基づき、年間の派遣予定を計画し、中学校・高等学校での英語授業(TT)や小学校での総合的な学習の中での指導を実施しています。また、保育所においても入所児に対し、英語に触れる環境づくりを整備しています。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	児童、生徒の英語及び外国に対する関心も高く、平成23年に改訂された学習指導要領における小学校高学年からの外国語活動の必修化に対応しており、英語に触れる環境づくりの一環としても極めて必要性が高いものであると判断します。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	小中高にALTを派遣することにより、児童、生徒が身近に本場の英語を肌で感じることができるとともに、英語に対する関心が深まっていると判断します。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	JETプログラムを活用し、適材な外国語指導助手を招致することができていると判断します。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	地域の児童、生徒を対象に英語教育の機会均等が図られているため、公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
各学校担当教員と指導案の確認や授業における役割などの打ち合わせを定期的に行うことで、効果的な授業が展開されており、計画通り事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
児童、生徒の英語及び外国に対する関心も確実に高まっており、今後も、学習指導要領に対応した事業展開を図ることが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010040

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	小中学校教師用指導書購入事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	各小中学校における授業内容の充実を図る		関係課	#N/A		
事業目標	全校		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

		全 体 計 画	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	教科書改訂時における指導書の購入と不足分の教師用指導書の購入		教師用指導書の購入	教師用指導書の購入	教師用指導書の購入 (小学校改訂)	教師用指導書の購入 (中学校改訂)	教師用指導書の購入	
	小学校 H27年度改訂(H26年度支払) 中学校 H28年度改訂(H27年度支払)							
計 画 事 業 費	事業費(千円)	8,800	800	5,000	2,000	500	500	
	財 源 内 訳	国庫支出金	0					
		道支出金	0					
		地方債	0					
		その他	0					
		一般財源	8,800	800	5,000	2,000	500	500
実 績 事 業 費	事業費(千円)	10,118	601	5,735	2,356	497	929	
	財 源 内 訳	国庫支出金	0					
		道支出金	0					
		地方債	0					
		その他	0					
		一般財源	10,118	601	5,735	2,356	497	929
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
		【評価・実績】	小中学校における教師用指導書の購入	小中学校における教師用指導書の購入	小中学校における教師用指導書の購入	小中学校における教師用指導書の購入	小中学校における教師用指導書の購入	
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	全校	全校	全校	全校	全校	
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率		75%	115%	118%	99%	186%
	全体達成率		7%	72%	99%	104%	115%	
	備考欄							

事業名	小中学校教師用指導書購入事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒、教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	指導書を配備する学校数
【抱える課題やニーズは】	効率的・効果的な授業展開及び教職員の指導力の向上が求められる。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	指導書を配備することにより、指導案の作成・授業の時間配分・必要な教材等が明確になり、効率的・効果的な授業展開が図られる。	① 町立学校数	目標年度 平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	分かりやすい授業展開により、児童・生徒の学力向上に資するとともに、教職員の指導力向上に寄与する。		目標値 5校
			達成度 100.0%
		②	目標年度 平成29年度
			目標値 〇〇
			達成度 #DIV/0!%
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	必要部数の把握	町内各小中学校に対し、不足の状況や既存指導書の状況確認を行い、必要部数の把握を行っています。	
	指導書の配備	教科書取扱店から購入し、各小中学校に配備しています。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	教職員が児童、生徒に対して学習計画を作成し、効率的な授業を展開していく上で必要であると判断します。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	指導書の配備により、教職員の指導力が向上するとともに教材研究も迅速となり、教育内容の充実が図られていると判断します。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	各学校に対し、必要部数の精査による購入と、特に、備品としての使用上の管理についても指導しているため、効率的であると判断します。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	児童、生徒全員に対する適切な授業の実施が行われていることから公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
教員の指導力の向上及び分かりやすい授業を展開することにより、教育内容の充実が図られており、計画通り事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
教員の更なる指導力の向上、児童、生徒に分かりやすい授業を展開するために、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010050

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	雄武町特別支援教育推進事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	特別支援教育支援員の配置			#N/A		
事業目標	2人		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	有 雄武町特別支援教育支援員配置要綱		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	特別な支援を必要とする児童生徒の在る学校の把握と検証に基づく対策の実施	・特別支援教育支援員の配置	・特別支援教育支援員の配置	・特別支援教育支援員の配置	・特別支援教育支援員の配置	・特別支援教育支援員の配置	
	・特別支援教育支援員の配置 2校(雄武小・雄武中)						
計 画 事 業 費	事業費(千円)	53,860	7,574	9,216	11,100	14,870	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	246	31	45	60	50		
一般財源	53,614	7,543	9,171	11,040	11,040	14,820	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	48,969	7,396	9,077	10,887	11,066	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	151		38	47	37	29	
一般財源	48,818	7,396	9,039	10,840	10,506	11,037	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
		【評価・実績】	特別支援教育支援員2人の配置 (雄武小・雄武中)	特別支援教育支援員3人の配置 (雄武小2人・雄武中1人)	特別支援教育支援員3人の配置 (雄武小2人・雄武中1人)	特別支援教育支援員3人の配置 (雄武小2人・雄武中1人)	特別支援教育支援員3人の配置 (雄武小3人・雄武中未配置)
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/拡充	※事務事業評価結果 A-継続/拡充
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	2人	3人	3人	3人	4人
	年度達成率	98%	98%	98%	95%	74%	
第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	14%	31%	51%	70%	91%	
	備考欄						

事業名	雄武町特別支援教育推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒・教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	特別支援教育支援配置学校数	
【抱える課題やニーズは】	現状の学校体制では、特別に支援を要する児童生徒への学習支援が困難な状況にある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	雄武町独自に特別支援教育支援員を確保し、要望のある学校に配置する。	① 特別支援教育支援員配置学校数	目標年度 平成29年度	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	教育上、特別な支援を要する児童生徒の学力向上及び授業展開の円滑化を図る。		目標値 2校	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	学校配置	特別支援教育支援員3人を雄武小学校に配置し、教育上、特別に支援を要する児童生徒に対する支援を行っています。雄武中学校については、1人配置予定でしたが、採用希望者がおらず未配置となりました。	実績値 1校	
			達成度 50.0%	
			②	目標年度 平成29年度
			目標値 〇〇	
			実績値 〇〇	
			達成度 #DIV/0!%	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	学校教育法改正に伴い、教育上、特別に支援を要する児童生徒に対して、学校設置者は、学習上又は生活上の困難を克服するための教育を行うことが位置付けられているため、支援体制の整備が必要であると判断します。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	学校の経営計画に基づく適正配置により、効果的に学習サポートが行われている状況であり、授業も円滑に進められていると判断します。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	特別支援教育支援員の学習サポートにより、円滑な授業が展開され、チームティーチング教員配置教科等では、当該教員が本来の役割を担うことができていると判断します。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	教育上、特別な支援を要する児童生徒に対しても個に応じた学習支援を提供できていることから公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
特別支援教育支援員の配置により、効果的に学習サポート等が行われ、授業も円滑に進められており、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/拡充		
特別支援学級はもとより、普通学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒が増加傾向であることから、雄武小学校に1名の配置増を行うとともに、大学からの推薦等を活用の上、中学校における未配置を解消し、引き続き事業を継続することが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010060

政策目標	3 のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12 学校教育の充実	事業優先度	A	
単位施策	1 小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	ふるさと教員配置事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	教員配置数		#N/A	
事業目標	1名	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有 雄武町ふるさと教員配置要綱	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	町費採用教員の配置(ふるさと教員)	ふるさと教員の配置	ふるさと教員の配置	ふるさと教員の配置	ふるさと教員の配置	ふるさと教員の配置
	事業費(千円)	18,640	3,728	3,728	3,728	3,728
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	75	15	15	15	15
一般財源	18,565	3,713	3,713	3,713	3,713	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	14,592	3,664	3,588	3,594	3,746
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	43		15	15	13	
一般財源	14,549	3,664	3,573	3,579	3,733	0
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】	ふるさと教員1名の配置 (幌内小・共栄小)	ふるさと教員1名の配置 (幌内小・沢木小)	ふるさと教員1名の配置 (幌内小・沢木小・豊丘小)	ふるさと教員1名の配置 (豊丘小・沢木小・共栄小)	ふるさと教員 未配置
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 1名	年度目標値 1名	年度目標値 1名	年度目標値 1名	年度目標値 1名
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 98%	年度達成率 96%	年度達成率 96%	年度達成率 100%	年度達成率 0%
	全体達成率 20%	全体達成率 39%	全体達成率 58%	全体達成率 78%	全体達成率 78%	
	備考欄					

事業名	ふるさと教員配置事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒・教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	ふるさと教員配置学校数
【抱える課題やニーズは】	児童生徒数の減少による、学校内教職員定数の減に伴い、少人数学級の指導に支障を来している状況にある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	学校のそれぞれの事情に応じた多種多様な教育活動の円滑化を推進し、教職員数不足により児童に影響を与えることのない学校体制の充実を図る。	① ふるさと教員配置学校数	目標年度 目標値 実績値 達成度
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	各学校の事情や教職員体制等の把握及び適切な配置を調査し、教職員の研修や行事の際の教職員配置不足に対応できる、適切な学校運営を行う。		目標年度 目標値 実績値 達成度
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	学校配置	小規模校における学校体制の充実を図るため、1人配置予定としておりましたが、人材の確保に至らず、未配置となりました。	
	各大学への推薦依頼	人材確保のため、各大学に推薦依頼を実施した。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	へき地複式校等における教員数の減少により指導体制及び児童の学力低下が懸念されるため、教職員の有資格者を配置し、少人数学級の指導体制の充実を図ることが必要であると判断します。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

課題あり	設定した目標値の達成状況	人材の確保に至らず適正に配置することはできなかったが、少人数学級の指導体制を向上する上では必要な事業であると判断します。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

課題あり	判断の理由	未配置ではあったが、少人数学級の授業補助の他にも、地域行事等への参加等、地域に対する貢献も含め、教育活動を円滑に推進する事業であると判断します。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

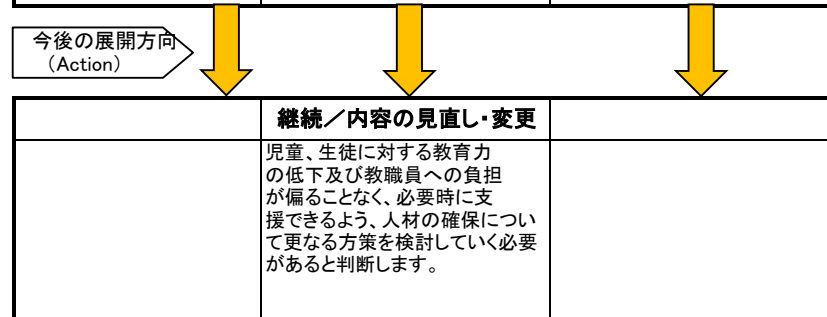
公平	判断の理由	未配置ではあったが、各学校全ての現状を把握に努め、事業内容も学校に偏りのない教育活動を行える体制づくりが整備に向け努めているため、公平性が保たれていると判断します。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	B	
	人材の確保ができず、未配置となったことから、次年度当初からの配置に向け、大学への推薦依頼を実施したところであります。	



※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010070

政策目標	3 のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12 学校教育の充実	事業優先度	A	
単位施策	1 小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	要保護・準要保護児童生徒援助事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	5 保健福祉課	
事業指標	児童生徒の義務教育保障		#N/A	
事業目標	経済的理由による就学困難児童生徒数 0人	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有 雄武町就学援助実施要綱	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	低所得世帯における児童生徒の就学援助	学用品費・体育実技用具費 校外活動費・修学旅行費 新入学児童生徒学用品費 給食費・医療費・クラブ活動費 生徒会費・PTA会費の援助	学用品費・体育実技用具費 校外活動費・修学旅行費 新入学児童生徒学用品費 給食費・医療費・クラブ活動費 生徒会費・PTA会費の援助	学用品費・体育実技用具費 校外活動費・修学旅行費 新入学児童生徒学用品費 給食費・医療費・クラブ活動費 生徒会費・PTA会費の援助	学用品費・体育実技用具費 校外活動費・修学旅行費 新入学児童生徒学用品費 給食費・医療費・クラブ活動費 生徒会費・PTA会費の援助	学用品費・体育実技用具費 校外活動費・修学旅行費 新入学児童生徒学用品費 給食費・医療費・クラブ活動費 生徒会費・PTA会費の援助 入学準備金
	事業費(千円)	15,315	2,035	2,621	3,553	3,553
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	15,315	2,035	2,621	3,553	3,553	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	14,300	2,312	2,457	3,142	2,684
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	14,300	2,312	2,457	3,142	2,684	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		低所得者層世帯に対する就学 援助費の支給 ・小学校児童20名 ・中学校生徒 8名	低所得者層世帯に対する就学 援助費の支給 ・小学校児童17名 ・中学校生徒11名	低所得者層世帯に対する就学 援助費の支給 ・小学校児童22名 ・中学校生徒16名	低所得者層世帯に対する就学 援助費の支給 ・小学校児童18名 ・中学校生徒14名
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	0人	0人	0人	0人
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	114%	94%	88%	76%
	全体達成率	15%	31%	52%	69%	
	備考欄					

事業名	要保護・準要保護児童生徒援助事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒、保護者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	経済的理由による就学困難児童生徒の解消
【抱える課題やニーズは】	経済的理由により、就学(義務教育を受けること)に支障をきたしている世帯がある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	学校教育法に基づく必要な支援を行い、就学(義務教育を受けること)の教育機会の均等化が図られる。	① 就学困難児童生徒数	目標年度 平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	一定水準の義務教育が保障されるとともに、児童生徒の健全な育成に繋がる。		目標値 0人
			実績値 0人
			達成度 #DIV/0! %
		②	目標年度 平成29年度
			目標値 〇〇
			実績値 〇〇
			達成度 #DIV/0! %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	支援を必要とする世帯の把握	学校を通じて保護者に対して制度の周知を行い、学校から提出を受けた申請に基づき、教育委員会議において認定の可否を決定しています。	
	就学援助費の支給	支援の必要な世帯の保護者に対して、町就学援助実施要綱に基づく就学援助費を支給しています。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	学校教育法において市町村は就学困難と認められる児童生徒の保護者に援助することとされており、町が担うべき事業であると判断します。
必要/概ね必要	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	本事業の実施に伴い、経済的に就学が困難な世帯の児童生徒に対する必要な支援を行うことができた判断します。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	支給額は、国の支給基準額並びに領収書に基づく実費支給であり、町実施要綱に基づく、効率的な処理であると判断します。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	本事業の実施に伴い、児童生徒における均等な教育機会を確保されているので公平であると判断します。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
一定水準の均等な義務教育を受ける機会が保障されており、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
法に基づく支援であり、本町を担う、児童生徒の健全な育成のためにも、義務教育の機会を均等に受けることは必要であり、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010080

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	児童生徒授業用コンピューター整備(更新)事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成27年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	更新台数			#N/A		
事業目標	111台		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	授業用パソコンの更新整備	雄武小学校 36台 (ホストPC1台・児童34台) (LAN接続方式) 4,800千円				沢木小、豊丘小、共栄小 計41台 新規購入
	雄武小 現有39台(H16年購入) 沢木小 現有11台(H21年購入) 幌内小 現有 8台(H21年購入) 豊丘小 現有10台(H21年購入) 共栄小 現有 5台(H21年購入) 雄武中 現有38台(H20年購入)	雄武中学校 42台 (端末42台、サーバー一式) (教育用アプリケーション一式) 14,900千円				
計 画 事 業 費	事業費(千円)	37,246	20,485	0	0	16,761
	財源内訳					
実 績 事 業 費	事業費(千円)	33,366	19,326	0	0	14,040
	財源内訳					
関 連 事 項	特定財源の名称 ふるさと応援基金	【評価・実績】	(実施内容等) 雄武小・雄武中(全児童生徒)の 更新整備 沢木小・幌内小・豊丘小・共栄小 (全児童)のバージョンアップ整備	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	111台			33台
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	94%	#DIV/0!	#DIV/0!	84%
	全体達成率	52%	52%	52%	52%	90%
	備考欄					

事業名	児童生徒授業用コンピューター整備(更新)事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童、生徒	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	パソコン更新整備数		
【抱える課題やニーズは】	使用するパソコンの不具合、OSのサポート期間満了等により更新が必要となる。新学習指導要領に対応すべく、各校のICT環境を整備する必要がある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	新機種に順次更新し、授業及び学校経営の安定化を図る。	① パソコン整備数	目標年度	平成29年度	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	町内小中学校の児童生徒が平等な授業を受けることが保障されるとともに、各小中学校において教育水準の維持が図られる。		目標値	41台	
			実績値	41台	
			達成度	100.0%	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	パソコン整備	タブレット・キーボード一体型端末の整備を実施しております。	②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇	
			実績値	〇〇	
			達成度	#DIV/0!%	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	ICT環境を整備することは、これからの教育活動において必要不可欠であるため、更新整備は町が担うべき事業であると判断します。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		町内小中学校における更新整備を計画的に進めているため、教育水準の維持に必要な対策を講ずることができていると判断します。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		今後の児童生徒数の推移を参考に数が過大とならないよう配慮し、導入したパソコンについても、タブレット、キーボードの一体型としたことで、効率的な整備を行った。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		町内の全小中学校児童生徒を対象とした更新整備事業であるため、公平性が保たれていると判断します。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
パソコン整備に伴い、均等な教育機会が図られており、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
今後もパソコンの劣化状況等を判断しながら、計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010090

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	山村留学推進事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	山村留学実施校の存続			#N/A		
事業目標	2校		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	雄武町山村留学推進協議会への運営補助 ・山村留学実施校～幌内小・共栄小	協議会への運営補助	協議会への運営補助	協議会への運営補助	協議会への運営補助	協議会への運営補助
	事業費(千円)	3,000	700	700	600	500
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	3,000	700	700	600	500	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	2,900	700	700	500	500
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	2,900	700	700	500	500	
関 連 事 項	特定財源の名称					
	【評価・実績】	(実施内容等) 雄武町山村留学推進協議会 に対する運営補助	(実施内容等) 雄武町山村留学推進協議会 に対する運営補助	(実施内容等) 雄武町山村留学推進協議会 に対する運営補助	(実施内容等) 雄武町山村留学推進協議会 に対する運営補助	(実施内容等) 雄武町山村留学推進協議会 に対する運営補助
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 2校	2校	2校	1校	1校
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 100%	100%	83%	100%	100%
	全体達成率 23%	47%	63%	80%	97%	
	備考欄					

事業名	山村留学推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・地域住民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	山村留学の実施校数																																
【抱える課題やニーズは】	児童数の減少から、関係学校の存続と地域衰退が懸念されている。	指標(指標計算式/解説)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">指標(指標計算式/解説)</th> <th colspan="2">目標値及び実績値</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">①</td> <td rowspan="2">山村留学実施校数</td> <td>目標年度</td> <td>平成29年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1校</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>実績値</td> <td>1校</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>達成度</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">②</td> <td rowspan="2"></td> <td>目標年度</td> <td>平成29年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>実績値</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>達成度</td> <td>#DIV/0!%</td> </tr> </table>	指標(指標計算式/解説)		目標値及び実績値		①	山村留学実施校数	目標年度	平成29年度	目標値	1校			実績値	1校			達成度	100.0%	②		目標年度	平成29年度	目標値	〇〇			実績値	〇〇			達成度	#DIV/0!%
指標(指標計算式/解説)		目標値及び実績値																																	
①	山村留学実施校数	目標年度	平成29年度																																
		目標値	1校																																
		実績値	1校																																
		達成度	100.0%																																
②		目標年度	平成29年度																																
		目標値	〇〇																																
		実績値	〇〇																																
		達成度	#DIV/0!%																																
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	地域協議会の活動を通じ、山村留学生を誘致し、へき地校の存続と教職員数の確保を図る。																																		
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	山村留学実施校の教育内容や教育環境の充実と地域活性化を促進するとともに山村留学生による児童数の増員を推進する。																																		
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	雄武町山村留学推進連絡協議会の運営	産業関係団体と地域連絡協議会からなる協議会を運営し、制度実施上の課題等について協議するとともに、山村留学生の受け入れ段階における各種協力体制の確立が図られています。																																	
	山村留学を実施している地域協議会への運営助成	制度実施校に対してPR経費や受け入れに必要な経費について、運営負担金として交付しています。																																	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	過疎化、地域の衰退を防ぐことは、町全体の課題でもあり、そのためにも必要な事業であると判断します。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	継続的な事業PRを通じて、山村留学の関心を深めるとともに事業活動を推進することができています。また、留学に至ってはいないものの問い合わせが数件あり、定住留学生2名の維持も図られていることから効果が表れていると判断します。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	地域協議会による事業活動のために必要な支援を行い、効率的な事業活動が行われていると判断します。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	へき地小学校における教育内容や教育環境の充実を促進するされ、教育の機会均等に寄与していると判断します。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
<p>新たな留学生確保には至っていないが、今後の事業の展開について検討した結果、留学に際しての保護者の就業も留学意思決定に影響を及ぼすことから、現行体制での事業を展開することが適当であります。</p>		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
<p>新たな留学生確保には至っていないが、今後の事業の展開について検討した結果、留学に際しての保護者の就業も留学意思決定に影響を及ぼすことから、現行体制で計画的に事業を進めることが適当であります。</p>		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010100

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	B		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	教育施設等管理委託業務		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	教育施設等の適切な維持管理		関係課	#N/A		
事業目標	委託対象全施設		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計画内容	教育委員会所管施設の維持管理業務の委託	維持管理業務の委託	維持管理業務の委託	維持管理業務の委託	維持管理業務の委託	維持管理業務の委託
	・小中学校全校					
	・町民センター					
	・テニスコート					
	・スポーツセンター ・武道センター					
計画事業費	事業費(千円)	150,488	27,983	27,770	30,790	31,606
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債 その他 一般財源	0 0 150,488	27,983	27,770	30,790	31,606
実績事業費	事業費(千円)	148,385	26,991	27,706	30,953	31,418
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債 その他 一般財源	0 0 148,385	26,991	27,706	30,953	31,418
関連事項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		【評価・実績】	教育委員会所管施設の維持管理業務の民間委託	教育委員会所管施設の維持管理業務の民間委託	教育委員会所管施設の維持管理業務の民間委託	教育委員会所管施設の維持管理業務の民間委託
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	委託対象全施設	委託対象全施設	委託対象全施設	委託対象全施設
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率		96%	100%	101%
	全体達成率			36%	57%	
	備考欄				99%	97%
					78%	99%

事業名	教育施設等管理委託業務	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒、地域住民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	各施設の適切な維持管理	
【抱える課題やニーズは】	民間活力を活用した施設管理の維持	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町民サービスの低下を招くことなく、民間活力を活用した施設管理の維持を図る。	① 管理委託施設数	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	学校環境整備による児童・生徒の学校生活の充実及び町民の文化・スポーツの振興並びに施設管理のコスト削減を図る。		目標値	10施設
			実績値	10施設
			達成度	100.0%
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	施設管理の民間委託	長期継続契約による施設管理委託を行っているため、教育委員会所管施設の効率的かつ適切な維持管理が行われています。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	学校用務員の配置は、児童・生徒、教職員にとって、充実した学校生活、適正な学校運営を進めるために必要不可欠であり、他の施設についても町民の利便性を高めることが重要であり、文化・スポーツの振興を図る上で、必要であると判断します。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	委託全施設の適切な維持管理が行われ、学校環境整備による児童・生徒の学校生活の充実と町民の文化・スポーツの振興等が図られていると判断します。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	長期継続契約による管理委託により、民間活力を活用し、効率的かつ適正な維持管理が行われていると判断します。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町内全学校に公務補が配置されていることと、地域住民が利用する施設の管理ということで公平性が保たれていると判断します。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
民間委託により直営による管理と同様の効率的な管理及び適切な維持管理が行われており、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
民間委託により、民間活力を活用した適切な施設管理が実施されているとともに、児童・生徒の学校生活の充実及び町民の文化・スポーツの振興が図られていることから、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 休止 廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010110

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	B		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	小中学校教育備品整備事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	学校施設の計画的な備品整備		関係課	#N/A		
事業目標	全校		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	各学校における教育環境の維持・確保 ・複写機、印刷機、その他備品の更新及び購入	各小中学校教材備品	各小中学校教材備品	各小中学校教材備品	各小中学校教材備品	各小中学校教材備品	
	事業費(千円)	27,784	6,040	6,172	6,172	5,300	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	27,784	6,040	6,172	6,172	5,300	4,100	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	23,522	5,329	5,809	3,819	4,910	
	財源内訳						
	国庫支出金	370		370			
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	23,152	5,329	5,439	3,819	4,910	3,655	
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) 各小中学校教材備品の購入	(実施内容等) 各小中学校教材備品の購入	(実施内容等) 各小中学校教材備品の購入	(実施内容等) 各小中学校教材備品の購入	(実施内容等) 各小中学校教材備品の購入	
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 全校	年度達成率 88%	年度達成率 94%	年度達成率 62%	年度達成率 93%	年度達成率 89%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率 備考欄	19%	40%	54%	72%	85%

事業名	小中学校教育備品整備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒、教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	備品配備学校数
【抱える課題やニーズは】	教育情勢の変化や経年劣化に伴い必要となる教材備品及び管理備品の計画的な整備	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	備品の計画的な整備により、日々の授業及び校務の円滑化を推進する。	① 備品配備学校数	目標年度 平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	小中学校における教育環境の構築と児童生徒に対する教育内容の充実を図る。		目標値 5校
			達成度 100.0%
		②	目標年度 平成29年度
			目標値 〇〇
			達成度 #DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	各学校における要望調査の実施	各学校における必要備品の要望調査を行い、緊急性及び必要性を確認した上で、翌年度の配備決定を行っています。	
	必要備品の配備	各学校への備品を配備しています。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	教育水準向上に向けた義務教材等の整備並びに校務推進上、必要な管理備品の整備(更新)については、教育環境及び教育内容の充実を図るために必要な事業であると判断します。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	小中学校の特色ある教育課程に対応した教材等の整備に伴い、授業及び校務が円滑に推進されていると判断します。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	各学校における要望備品の査定の実施及び複数業者による見積り合わせによる購入、国庫補助金を活用する等、事業費の抑制に努めています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	学校運営上、小中学校の全児童、生徒に対しての教育内容や教育環境の充実が図られていることから、公平性が保たれていると判断します。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
教材等の整備並びに校務に必要な備品の整備により、教育内容や教育環境の充実が図られ、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
授業及び校務を円滑に推進するため、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010120

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	B		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	各学校施設修理工事		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	11 町有施設整備室		
事業指標	学校施設の適切な維持管理			#N/A		
事業目標	全校		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	小規模修理・改修工事の実施	小規模修理・改修工事 一式	小規模修理・改修工事 一式	小規模修理・改修工事 一式	小規模修理・改修工事 一式	小規模修理・改修工事 一式	
	事業費(千円)	14,358	2,330	3,240	3,888	2,700	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	14,358	2,330	3,240	3,888	2,700	2,200	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	12,915	2,224	2,393	3,881	2,592	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	12,915	2,224	2,393	3,881	2,592	1,825	
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) 雄武小学校児童用トイレ・水 飲み場塗装工事 幌内小学校運動公園柵・木 造遊具撤去工事 雄武中学校高圧開閉器取替 工事 他 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 雄武小学校体育館ステージ 袖幕取替工事 他 雄武小学校・沢木小学校 高圧受電盤塗装 豊丘小学校 暗幕開閉器取替 雄武中学校 区画線整備 他 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 沢木小学校施設改修工事 旧栄丘小学校案内標識撤去工事 沢木小1階便所水抜栓改修工事 中学校施設改修工事 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 雄武小学校・共栄小学校物置設置工事 雄武中学校・豊丘小学校ガラス取替工事 豊丘小学校キュービクル外装塗装工事 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 雄武小学校花壇改修工事 豊丘小学校音楽室改修工事 豊丘小学校プール脱衣室改修工事 沢木小学校林整備工事 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 全校	95%	74%	100%	96%	83%
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 全体達成率 備考欄	15%	32%	59%	77%	90%

事業名	各学校施設修理改修事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	学校関係施設	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	学校施設の適切な維持管理								
【抱える課題やニーズは】	安全で安心な教育環境を維持するため、老朽箇所の整備が必要である。	指標(指標計算式/解説)	指標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	児童生徒が安心して学校生活を過ごすことができる環境を整備するとともに、施設の延命化を図る。	① 町内学校施設	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>5校</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>5校</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	5校	実績値	5校	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	5校										
実績値	5校										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	児童・生徒、保護者及び学校関係者が安全で安心できる教育環境づくりを推進する。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	学校要望調査の実施	各学校における修理等要望調査を実施し、実施箇所の決定を行っています。									
	状況把握	学校管理職、工事担当課との現状確認により、緊急性や必要性を考慮し、翌年度の工事施工箇所及び工法について確認しています。									
	工事施工	教育環境を維持するために各種工事を発注しています。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	児童、生徒が義務教育を受けるための学校施設を町が維持管理していくことは必要不可欠であり、特に児童、生徒の安全面を最重要視し、保護者も安心できる教育環境を整備するために本事業の実施は必要であると判断します。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	教育環境整備として施設の延命化が図られていると判断します。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input checked="" type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		必要工事の精査、費用積算についても効率性を重視しています。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		児童、生徒が等しく安全性の受益を享受することができているので、公平性が保たれていると判断します。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
児童生徒が義務教育を受けるための環境づくりを通じて、保護者が安心して子どもを学校に通学させられる環境が整備されており、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
児童、生徒の安全面を最重要視し、的確な修繕工事の必要性を把握し、児童、生徒が義務教育を受けるための環境づくり及び保護者が安心して子どもを学校に通学させられる環境づくりを推進するため、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010130

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	B		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	生徒教育振興事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	部活動を通じて生徒の健康増進を図るとともに、仲間意識を強め、より良い学校づくりを行う		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
事業目標	1校		関係例規・法令名	無		
住民参加	無		関係個別計画名	無		
住民協働	無					

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	中体連等参加経費の負担	参加経費の負担	参加経費の負担	参加経費の負担	参加経費の負担	参加経費の負担
	事業費(千円)	11,330	1,700	2,430	2,400	2,400
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	11,330	1,700	2,430	2,400	2,400
実 績 事 業 費	事業費(千円)	10,378	1,690	2,037	1,946	2,358
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	10,378	1,690	2,037	1,946	2,358
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		【評価・実績】	中体連等参加経費の負担	中体連等参加経費の負担	中体連等参加経費の負担	中体連等参加経費の負担
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	1校	1校	1校	1校
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率		99%	84%	81%
	全体達成率		15%	33%	50%	
	備考欄				98%	92%

事業名	生徒教育振興事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	生徒、保護者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	部活動を通じた豊かな人間形成を構築する学校数
【抱える課題やニーズは】	部活動加入率及び大会参加経費が増加傾向にあり、大会への参加奨励のための支援を要する。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	本事業によって保護者負担の軽減を図る。部活動を通じて仲間意識を養うとともに生徒の健康保持、増進を図る。	① 中学校数	目標年度 平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	仲間意識が養われ、生徒が充実した学校生活を送ることによって、より良い学校作りにつながり、さらには学習意欲の向上にもつながる。		目標値 1校
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	大会参加に係る負担金の助成	中学校から実施要項並びに負担費用の内訳を付した申請書の提出があり、参加費補助要項(内規)に基づき内容を審査し、適当であれば資金前渡により負担金を支出、大会終了後に、領収書を添付した報告書の提出を求め、支出状況を確認のうえ精算しています。	実績値 1校
			達成度 100.0%
			目標年度 平成29年度
			目標値 〇〇
			実績値 〇〇
			達成度 #DIV/0!%

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	義務教育課程における活動であり、保護者の負担軽減を図るとともに、部活動を通じて仲間意識を養い、かつ、生徒の健康保持、増進を図る上でも必要な事業であると判断します。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	仲間意識が強まり、生徒が充実した学校生活を送ることにより、豊かな人間形成が確立されていると判断します。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	大会への参加費補助要項(内規)に基づき、中体連及び中体連に準ずる大会への参加経費を支出しており、適正な審査を行うとともに、可能な限りの効率的執行に努めています。
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	対象生徒の経費負担を等しく行っており、公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
義務教育課程における活動であり、保護者の負担軽減を図るとともに、部活動を通じて健康保持、増進が図られ、豊かな人間形成が確立されており、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
保護者の負担が軽減され、生徒間の仲間意識が向上、充実した学校生活を送ることにより、豊かな人間形成が確立されており、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010140

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	B		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	学校図書整備事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	計画的な図書整備		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
事業目標	全校		関係例規・法令名	有	学校図書館法	
住民参加	無		関係個別計画名	無		
住民協働	無					

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	学校図書館の充実 各小中学校の学校図書購入	学校図書の購入	学校図書の購入	学校図書の購入	学校図書の購入	学校図書の購入
	事業費(千円)	7,700	1,600	1,600	1,600	1,450
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	1,450				1,450
実 績 事 業 費	事業費(千円)	7,254	1,533	1,509	1,487	1,380
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	1,345				1,345	
一般財源	5,909	1,533	1,509	1,487	1,380	
関 連 事 項	特定財源の名称 ふるさと応援基金	(実施内容等) 各小中学校の学校図書購入	(実施内容等) 各小中学校の学校図書購入	(実施内容等) 各小中学校の学校図書購入	(実施内容等) 各小中学校の学校図書購入	(実施内容等) 各小中学校の学校図書購入
	【評価・実績】	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 全校	全校	全校	全校	全校
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	96%	94%	93%	95%
		全体達成率	20%	40%	59%	77%
	備考欄					

事業名	学校図書整備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒・教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	計画的な図書配備を行う学校数
【抱える課題やニーズは】	児童・生徒の発達段階に見合う継続性ある図書整備が必要である。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	学校図書館の図書の充実及び児童・生徒の読書意欲等の促進を図る。	① 町内学校数	目標年度 平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	児童・生徒の発達段階に見合う継続性ある図書整備により、健全な教養を育成するとともに、自ら学ぶ意欲の向上が図られる。		目標値 5校
			達成度 100.0%
		②	目標年度 平成29年度
			目標値 〇〇
			達成度 #DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	図書備品購入費の配当	国の定める基準に基づき、学校へ図書購入費を配当しています。	
	図書の購入	学校からの購入申請について、内容審査のうえ承認し、学校が購入しています。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	学校図書の整備は教育課程において、必須とされるものであり、教育内容の充実、教育環境を整備する上において、学校図書の購入、更新は必要であると判断します。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	教育課程において必要な図書をもって、豊かな人間形成を推進するとともに、常に変化する社会に適応した図書の配備により、児童、生徒の健全な教養が育成されていると判断します。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町図書館との連携により、重複した図書購入の防止等に努めています。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	児童、生徒に対する必要な図書整備を進めており、図書利用の公平性が保たれていると判断します。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A	
	学校図書の整備により、児童、生徒の健全な教養の育成が図られており、計画どおり事業が進んでいます。	

今後の展開方向
(Action)

	継続/現状維持	
	教育課程において必要とされる図書及び時代に即した図書を計画的に配備することにより、児童、生徒の健全な教養が育成されており、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010150

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	B		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	雄武町学校教育振興推進協議会補助事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	協議会の安定運営			#N/A		
事業目標	1団体		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	町内全教育機関の連携による学校教育内外の活動と教職員資質の向上を図るための協議会に対する運営補助	運営補助	運営補助	運営補助	運営補助	運営補助
	事業費(千円)	5,600	1,000	1,000	1,200	1,200
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	5,600	1,000	1,000	1,200	1,200	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	5,328	954	884	1,200	1,090
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	5,328	954	884	1,200	1,200	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		【評価・実績】	運営補助金の交付	運営補助金の交付	運営補助金の交付	運営補助金の交付
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	1団体	1団体	1団体	1団体
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	95%	88%	100%	100%
	全体達成率	17%	33%	54%	76%	
	備考欄					

事業名	雄武町学校教育振興推進協議会補助事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒・教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	協議会の安定した運営	
【抱える課題やニーズは】	児童生徒数の減少による、教職員の定数配置の減少に伴い、学校経営・運営に支障を来している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町内の全教育機関が連携し、専門部会ごとの課題検討や協議によって教職員の資質向上と時代の変化に対応した均質な学校経営、運営を進める。	① 運営団体数	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	雄武町教育目標の達成に向けて町内の全教員が同じ認識のもとに学校経営・運営を行うとともに、教職員の資質向上によって児童生徒が時代の変化に対応した、より良い教育を受けることができる。		目標値	1 団体
			実績値	1 団体
			達成度	100.0 %
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0! %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	協議会への運営補助	協議会の安定した運営に向け、運営費を助成しています。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	大きく変化する教育情勢に対応するため、町内の全教育機関が連携し、専門部会ごとに課題検討、協議を進め、教職員の資質向上、時代の変化に対応した均質のある学校経営、運営を行うためにも運営補助は必要であると判断します。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	安定した協議会運営がなされ、各種部門部会での積極的な課題検討が行われるとともに、教職員の資質向上に向けた研修も行われており、各学校間の連携も図られていると判断します。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	活動に見合う効率的かつ効果的な運営を促しており、補助金についても、運営状況の精査を行うなど効率化に努めています。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	各学校において、成果に基づく均質ある教育が進められているほか、全教職員の資質向上に対して、公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
時代の変化に対応した均質のある学校経営、運営が行われており、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
変化する教育情勢に対応し、適切な学校経営及び運営並びに協議会組織を活用した事業を展開することにより教職員の資質向上が推進されており、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010160

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	B		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	教職員教育振興事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	教職員の資質の向上と授業内容の向上		関係課	#N/A		
事業目標	全校		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	教職員の資質の向上等を図るため、各種研修等に要する経費について一部を負担する。	研修経費の一部負担	研修経費の一部負担	研修経費の一部負担	研修経費の一部負担	研修経費の一部負担
	事業費(千円)	2,520	504	504	504	504
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	2,520	504	504	504	504	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,583	271	333	404	285
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	1,583	271	333	404	285	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		【評価・実績】	研修経費の一部負担	研修経費の一部負担	研修経費の一部負担	研修経費の一部負担
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	全校	全校	全校	全校
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	54%	66%	80%	57%
	全体達成率	11%	24%	40%	51%	
	備考欄					

事業名	教職員教育振興事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	各学校における教育内容の充実	
【抱える課題やニーズは】	教員の資質向上を図るための研修機会がへき地の不利な条件等から少ない状況となっている。	指標(指標計算式/解説)	指標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	教職員が本事業を活用し、積極的に視察や研修を行う。	① 本事業の活用学校数	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	変化する教育情勢に対応した知識の習得など、教職員としての資質の向上を図ることによって、円滑な学校運営が推進され、さらには教育内容の充実にもつながる。		目標値	5校
			実績値	5校
			達成度	100.0%
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	先進地視察希望者の取りまとめ	各学校を通じて教職員の先進地視察希望者のとりまとめを行っています。		
	校内研修計画書等の徴収	各学校において実施する校内研修、公開研究会に係る計画内容を確認しています。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	へき地に勤務する教職員は都市部と比較し、研修機会が少ないため、研修機会を与え、新たな知識の習得等、教職員としての資質向上を推進することにより、円滑な学校運営、教育内容の充実にもつながることから本事業は必要であると判断します。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	先進地視察や校内研修、公開研究会を行うことにより、教職員の資質向上が推進されていると判断します。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	必要な研修等の精査を行い、費用負担を行っているため、効率性の重視を図っています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 人員削減	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	研修により、その成果が児童、生徒に還元され、町の教育水準が向上すること、また、教職員個々の資質向上が推進される事業であり、一部負担としているため、公平性が保たれていると判断します。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
へき地勤務教職員は都市部と比較し、研修機会が少ないため、研修に対し支援を行うことにより、教職員としての資質が向上するとともに、円滑な学校運営、教育内容も向上しており、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
へき地に勤務する不利性を解消し、本事業によって研修に参加することにより、教職員としての資質が向上し、円滑な学校運営、教育内容の充実にもつながるため、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010170

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	教育相談員配置事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	学校教育や家庭教育に関する相談に対応するための相談員の配置		関係課	#N/A		
事業目標	1名		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	教育相談員の配置 1名	教育相談員の配置	教育相談員の配置	教育相談員の配置	教育相談員の配置	教育相談員の配置
	・賃金 ・共済費 ・旅費 ・電話料 ・事業展開費(報償費・需用費・役務費)	・賃金 2,760千円 ・共済費 385千円 ・旅費 45千円 ・電話料 30千円 ・事業展開費 50千円	・賃金 2,760千円 ・共済費 385千円 ・旅費 45千円 ・電話料 30千円 ・事業展開費 50千円	・賃金 2,760千円 ・共済費 385千円 ・旅費 45千円 ・電話料 30千円 ・事業展開費 50千円	・賃金 3,780千円 ・共済費 565千円 ・旅費 45千円 ・電話料 30千円 ・事業展開費 50千円	・賃金 3,780千円 ・共済費 565千円 ・旅費 45千円 ・電話料 30千円 ・事業展開費 50千円
計 画 事 業 費	事業費(千円)	18,750	3,270	3,270	4,470	4,470
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	18,400	3,200	3,200	4,400	4,400
	その他	0				
実 績 事 業 費	事業費(千円)	0	0	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
関 連 事 項	特定財源の名称 過疎対策事業債(ソフト)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
		※事務事業評価結果 C-継続/現状維持	※事務事業評価結果 C-継続/現状維持	※事務事業評価結果 C-継続/現状維持	※事務事業評価結果 C-継続/内容の見直し・検討	※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・検討
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 1名	1名	1名	1名	1名
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 0%	0%	0%	0%	0%
	全体達成率 0%	0%	0%	0%	0%	
	備考欄					

事業名	教育相談員配置事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童、生徒、保護者、教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	相談員配置数
【抱える課題やニーズは】	いじめや不登校、非行などの課題解決と未然防止のための仕組みづくりが必要である。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	総合的に相談を受け、各関係者と協議し課題を解決することのできる体制の整備を図る。	① 相談員配置数	目標年度 目標値 実績値 達成度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	家庭や学校が抱える様々な問題の解決により、児童生徒の健全な育成が図られる。		②
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	人材確保	教育に関して専門的な知識を有し、地域及び学校現場の実情も把握している適任者を新たに採用するため、教育局等を通じて、人材確保のための活動を実施しています。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	児童、生徒の健全育成はもとより、地域、学校及び行政とのつながりの拠点としても必要な事業であると判断します。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

課題あり	設定した目標値の達成状況	人材確保が出来ず、未配置となり、目標を達成することができませんでした。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input checked="" type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

課題あり	判断の理由	相談員を配置することができなかったことにより、職員で対応しましたが、教育相談業務等に影響がありました。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	教育相談を一元的に受けることで、公平性が保たれると判断します。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	B	
	教育局等を通じて、相談員確保のための活動を実施したほか、退職校長への打診を行った結果、計画どおりに配置することはできなかったものの、次年度に向けて人材を確保し、配置が決定しました。	

今後の展開方向(Action)	↓ ↓ ↓	継続/内容の見直し・変更	10
		今後も人材確保のための活動を確保し、次年度においては確保した人材の配置事務を進めることとします。	

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010180

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	学校環境整備事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	10 建設水道課 11 町有施設整備室		
事業指標	学校施設の適切な維持管理		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
事業目標	小学校5校・中学校1校		関係例規・法令名	無		
住民参加 住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	学校施設の経年からなる老朽化等に対する改修工事等の実施	各小学校電気工作物改修(雄武・沢木・幌内・豊丘) 8,500千円 雄武小学校スライド黒板改修(4・5・6年) 3,400千円 豊丘小学校緑水園堆積土撤去工事 1,950千円 豊丘小学校駐車場改修 12,000千円 沢木小学校プールシート取替工事 1,150千円	雄武小学校体育館便所改修 2,700千円 雄武中学校グラウンド整備 5,092千円 幌内小学校プール改修 1,080千円 豊丘小学校プール改修 1,261千円 豊丘小学校サイクルポート設置工事 1,674千円 非構造部材状況調査(沢木・幌内・雄武中) 5,500千円	各小中学校体育館改修工事(沢木小・雄武中) 45,000千円 豊丘小学校駐車場改修工事 4,700千円 豊丘小学校排水改修工事 7,500千円 雄武中学校玄関前改修工事 2,300千円	洋式トイレ改修事業(雄武小) 7,500千円 電気暖房操作盤取替工事(雄武小) 7,809千円 町内小学校遊具改修工事(全校) 4,069千円	給食用エレベーター制御盤取替工事(雄武小、雄武中) 2,300千円 町内小学校遊具改修工事(沢木小、共栄小) 2,300千円	
	事業費(千円)	127,794	27,000	17,307	59,500	19,387	4,600
計 画 事 業 費	国庫支出金	15,000			15,000		
	道支出金	0					
	地方債	30,000			30,000		
	その他	0					
	一般財源	82,794	27,000	17,307	14,500	19,387	4,600
実 績 事 業 費	事業費(千円)	126,587	26,400	30,667	45,660	19,378	4,482
	国庫支出金	11,077			11,077		
	道支出金	0					
	地方債	17,800			17,800		
	その他	567		567			
一般財源	97,143	26,400	30,100	16,783	19,378	4,482	
関 連 事 項	特定財源の名称 地域の元気臨時交付金 防災機能強化事業補助金 全国防災事業債	【評価・実績】	(実施内容等) 各小学校電気工作物改修 雄武小学校スライド黒板改修 豊丘小学校緑水園堆積土撤去工事 豊丘小学校駐車場改修 沢木小学校プールシート取替 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 共栄小学校屋上防水シート取替 雄武小学校体育館便所改修工事 雄武小学校特別支援学級改修工 豊丘小学校サイクルポート設置 雄武中学校グラウンドバックネッ 取替工事、整備工事 他 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 沢木小学校非構造部材耐震工事 豊丘小排水改修工事 豊丘小学校通学路改修工事 中学校非構造部材耐震工事 中学校玄関前改修工事 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 雄武小学校校舎トイレ改修工事 雄武小学校暖房操作盤取替工事 小学校遊具改修工事 豊丘小学校樹木伐採工事 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 雄武小学校、中学校給食用エレベーター 制御盤取替工事 共栄小学校ブランコ設置工事 沢木小学校鉄棒バー取替工事 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	小学校4校	小学校4校・中学校1校	小学校2校・中学校1校	小学校4校・中学校1校	小学校3校・中学校1校
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	98%	177%	77%	100%	97%
		全体達成率	21%	45%	80%	96%	99%
	備考欄						

事業名	学校環境整備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	学校関係施設	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	学校施設の適切な維持管理								
【抱える課題やニーズは】	安全で安心な教育環境を維持するため、老朽箇所の整備が必要である。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	児童生徒が安心して学校生活を過ごすことができる環境を整備するとともに、施設の延命化を図る。	① 町内学校施設	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>5校</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>5校</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	5校	実績値	5校	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	5校										
実績値	5校										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	児童・生徒、保護者及び学校関係者が安全で安心できる教育環境づくりを推進する。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	学校要望調査の実施	各学校における修理等要望調査を実施し、実施箇所の決定を行っています。									
	状況把握	学校管理職、工事担当課との現状確認により、緊急性や必要性を考慮し、翌年度の工事施工箇所及び工法について確認しています。									
	工事施工	教育環境を維持するために各種工事を発注しています。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	児童、生徒が義務教育を受けるための学校施設を町が維持管理していくことは必要不可欠であり、特に児童、生徒の安全面を最重要視し、保護者も安心できる教育環境を整備するために本事業の実施は必要であると判断します。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	教育環境整備として施設の延命化が図られていると判断します。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	必要工事の精査、費用積算についても効率性を重視しています。
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	児童、生徒が等しく安全性の受益を享受することができているので、公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
児童生徒が義務教育を受けるための環境づくりを通じて、保護者が安心して子どもを学校に通学させられる環境が整備されており、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
児童、生徒の安全面を最重要視し、的確な修繕工事の必要性を把握し、児童、生徒が義務教育を受けるための環境づくり及び保護者が安心して子どもを学校に通学させられる環境づくりを推進するため、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010210

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	小中学校児童生徒検定チャレンジ促進事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	資格取得者数		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
事業目標	小学校120人 中学校100人		関係例規・法令名	有	雄武町立小中学校児童生徒検定チャレンジ促進助成金交付要綱	
住民参加	無		関係個別計画名	無		

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
全体計画 事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計画 内 容	漢字検定・英語検定等受験料の助成	検定受験費用の助成	検定受験費用の助成	検定受験費用の助成	検定受験費用の全額助成	検定受験費用の全額助成
	事業費(千円)	1,625	325	325	325	325
計画 事業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	1,625	325	325	325	325	
実績 事業 費	事業費(千円)	937	103	123	149	223
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	937	103	123	149	223	
関連 事項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】	検定受験費用の助成 児童67人・生徒99人	検定受験費用の助成 児童69人・生徒52人	検定受験費用の助成 児童58人・生徒39人	検定受験費用の助成 児童59人・生徒50人	検定受験費用の助成 児童78人・生徒83人
		※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 120人・100人	120人・100人	120人・100人	120人・100人	120人・100人
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 32%	38%	46%	69%	104%
	全体達成率 6%	14%	23%	37%	58%	
	備考欄					

事業名	小中学校児童生徒検定チャレンジ促進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童、生徒	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	チャレンジ児童生徒数
【抱える課題やニーズは】	児童の漢字検定並びに生徒の漢字検定及び英語検定における受験費用の保護者の経済的負担の軽減。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	漢字検定及び英語検定受験費用を全額助成することにより保護者負担の軽減を図る。	① チャレンジ児童生徒数	目標年度 平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	受験費用の一部助成により、受験者が増加し、児童生徒の漢字力及び英語力の向上が図られる。		目標値 220人
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	助成金の支給	受験者の取りまとめは、町内各小中学校が窓口となり、教育委員会に報告。教育委員会は各学校からの申請に基づき助成金を交付しています。	達成度 73.2%
			②
			目標値 〇〇
			実績値 〇〇
			達成度 #DIV/0!%

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	児童、生徒の学習意欲、チャレンジ精神の向上、保護者への経済支援として、受験費用の全額助成は、学力向上のためにも必要であると判断します。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	目標値は下回ったが、前年度に比べて利用増となっており、保護者への啓発等について一定の成果があったと判断します。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	学習意欲、チャレンジ精神の向上を推進するために行っている事業であり、現時点においては、コストに見合った効果が得られていると判断します。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	児童、生徒の誰もが、チャレンジする場合に助成が受けられるものであり、公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
目標値を下回りましたので、制度利用増に向けて保護者等への啓発の充実等、事業の進め方に改善が必要であります。		

今後の展開方向
(Action)

継続/内容の見直し・変更		
平成28年度から検定受験費用の全額助成を実施しておりますが、更なる利用増に向け、現在の助成内容を継続した上で、今後も周知方法等の見直しを図りながら進めることが適当であります。		

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010240

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	B		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	教職員用パソコン導入(更新)事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成28年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	配置台数			#N/A		
事業目標	60台		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容				
計画内容	教職員用パソコン更新整備事業	各小中学校教職員用パソコンバージョンアップ作業			雄武小学校 20台 沢木小学校 8台 豊丘小学校 8台 共栄小学校 9台 雄武中学校 17台 計62台 情報共有ネットワークの更新 1,250千円	雄武小学校 20台 沢木小学校 8台 豊丘小学校 8台 共栄小学校 9台 雄武中学校 17台 計62台 新機種配備
	雄武小 18台 沢木小 8台 幌内小 6台 豊丘小 8台 共栄小 4台 雄武中 16台 計 60台					
計画事業費	事業費(千円)	32,424	1,426	0	0	1,250
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	29,748				29,748	
一般財源	2,676	1,426			1,250	
実績事業費	事業費(千円)	2,740	1,571	0	0	1,167
財源内訳						
国庫支出金	0					
道支出金	0					
地方債	0					
その他	2					2
一般財源	2,738	1,571			1,167	
関連事項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	備荒資金	【評価・実績】	各小中学校教職員用パソコンバージョンアップ作業		情報共有ネットワークの更新作業	各小中学校校務用パソコン計62台 他周辺機器等整備
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	60台		60台	62台
第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	110%	#DIV/0!	#DIV/0!	93%	
	全体達成率	5%	5%	5%	8%	
	備考欄					

事業名	教職員用パソコン導入(更新)事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	更新整備数								
【抱える課題やニーズは】	使用するパソコンの不具合、OSのサポート期間満了等により更新が必要となる。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	新機種に更新し、校務支援体制の円滑化を図る。	① 整備数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>62台</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>62台</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	62台	実績値	62台	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	62台										
実績値	62台										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	教員の事務作業の負担軽減、効率化が図られる。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	パソコン整備	新機種を教職員1人1台ずつ配備し、グループウェアもあわせて活用することで、事務作業の負担軽減を図った。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	パソコン、グループウェアは学校運営を行うため必要不可欠であり、更新整備は町が行う事業であります。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	町内小中学校におけるすべてのパソコンの更新を実施しており、校務支援体制を確立するため必要な対策を講ずることができていると判断します。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	教職員数を考慮し、台数が過大とならないよう整備したことで、事業費は抑制されたと判断します。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町内小中学校において教職員が使用するパソコンすべての更新整備を実施しており、公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
今後もパソコンの劣化状況、OSのサポート期間等を考慮しながら計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010250

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	B		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	教職員住宅環境整備事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	教員住宅の適切な維持管理		関係課	#N/A		
事業目標	各小・中学校教員住宅		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	教職員住宅の改修	沢木小学校教員住宅給水設備改修 2,000千円 共栄小学校教員住宅内窓改修 1,900千円 幌内小学校校長住宅改修 1,500千円 沢木小学校校長住宅給水設備改修 900千円			全教員住宅の状況調査	教員住宅改修計画策定	事前状況調査
	事業費(千円)	6,300	6,300	0	0	0	0
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	6,300	6,300					
実 績 事 業 費	事業費(千円)	6,108	6,108	0	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	6,108	6,108	0	0	0	0	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		沢木小学校教員住宅給水設備改修 共栄小学校教員住宅内窓改修 幌内小学校校長住宅改修 沢木小学校校長住宅給水設備改修 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	全教員住宅の状況調査 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 C-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 C-継続/内容の見直し・変更
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	沢木・共栄・幌内の各教員				
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	97%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
		全体達成率	97%	97%	97%	97%	97%
	備考欄						

事業名	教職員住宅環境整備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	教職員住宅整備戸数	
【抱える課題やニーズは】	教職員住宅の老朽化に伴い部分改修整備が必要である。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	老朽化住宅の整備を推進する。	① 教職員住宅整備戸数	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	良好な住環境の整備を推進する。	②	実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0! %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	状況調査	各学校から予算要望時に修繕希望箇所の聞き取りを実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	老朽化した教職員住宅の改修整備を行うことは、住宅の延命化を図るとともに、住環境整備が推進されるため、必要であると判断します。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

課題あり	設定した目標値の達成状況	各学校には予算要望時に修繕必要箇所について確認したが、具体的な方向性を見出すには至っていないことから、計画策定についても一考を要する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	調査のみのため、コストは未発生と判断します。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	地域住民でもある教職員の住環境の改善を図る事業であり、町民の理解も得られるものと判断します。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	C	
	突発的な修繕発生には適宜対応しているが、計画策定に向けた事前調査については、各校から修繕希望箇所の聞き取りは行ったものの、具体的な方向性を見出すには至っていないことから更なる検討が必要であります。	

今後の展開方向
(Action)

	継続/内容の見直し・変更	
	今年度については、予算要望時に各学校から聞き取り調査を実施したが、今後は工事担当課と連携し、住宅の点検等を行い、具体的な方向性を見出すことが適当であります。	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010260

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	へき地小学校巡回事務職員配置事業					
事業期間	平成25年度～平成29年度					
事業主体	雄武町					
事業指標	事務職員配置人数					
事業目標	1人					
住民参加	無					
住民協働	無					
			見直し年度			
			担当課	12 教育委員会教育振興課		
			関係課	#N/A		
			ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
			関係例規・法令名	無		
			関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	へき地小学校への事務職員の配置	事務職員配置に係る調査実施	事務職員の配置	事務職員の配置	事務職員の配置	事務職員の配置
	事業費(千円)	12,000	0	3,000	3,000	3,000
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	12,000	3,000	3,000	3,000	3,000	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	9,974	0	2,444	2,609	2,335
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	38	11	12	8	7	
一般財源	9,936	0	2,433	2,597	2,327	2,579
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		巡回事務職員1人の配置 (幌内小学校)	巡回事務職員1人の配置 (幌内小学校)	巡回事務職員1人の配置 (豊丘小学校)	巡回事務職員1人の配置 (豊丘小学校)
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	1名	1名	1名	1名
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	81%	87%	78%
	全体達成率	0%	20%	42%	62%	83%
	備考欄					

事業名	へき地小学校巡回事務職員配置事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	へき地小学校	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	事務職員未配置校に対する配置	
【抱える課題やニーズは】	児童数の減少のため教職員の定数減により、小規模校への事務職員が未配置となる。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町費負担の事務職員を配置することにより、各教職員が職位に応じた業務を遂行できる。	① 事務職員配置人数	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	適正な学校経営が図られる。		目標値	1人
			実績値	1人
			達成度	100.0%
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	各学校の状況把握	小中学校教職員の配置基準により、町内小中学校の教職員配置を把握し、巡回事務職員配置の判断をしています。		
	事務職員の配置決定	昨年度から引き続き、豊丘小学校に配置することができた。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	教頭職、事務職員等が未配置となる学校については、校長職をはじめ、教職員に負担が生じることとなり、本来の校務以外の負担の軽減を図るため、町が担う必要があると判断します。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	町費負担の事務職員を配置することにより、各教職員が職位に応じた業務の遂行を可能とする体制が整備されていると判断します。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	学校に配置するにあたりコストに見合った効果が得られたものと判断します。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	全小中学校に事務職員が配置されているため、公平性は確保されていると判断します。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
適正人材の配置となり、計画どおり事業が進んでおります。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
次年度以降の教職員の配置は未確定ではありますが、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010270

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	5	高校への継続的な支援	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	雄武高等学校存続対策事業		見直し年度	平成27年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	雄武高校の存続に向けた各種施策の実施		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
事業目標	①各種支援数、②資格試験合格者数		関係例規・法令名	有	雄武高等学校遠距離通学生徒通学費等補助・生徒資格取得支援助成交付要綱	
住民参加	有		関係個別計画名	無		

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
全体計画 事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	雄武高校の存続に向けた協議・取組を進める。	協議会の開催	協議会の開催	協議会の開催 遠距離通学生徒通学費補助 2,938千円 部活動関係振興事業補助 1,410千円 就学支援補助 600千円 資格取得受験費用の助成 100千円	協議会の開催 遠距離通学生徒通学費補助 1,622千円 部活動関係振興事業補助 1,410千円 就学支援補助 750千円 資格取得受験費用の助成 200千円 見学旅行参加助成金 570千円	協議会の開催 遠距離通学生徒通学費補助 1,622千円 部活動関係振興事業補助 1,410千円 就学支援補助 900千円 資格取得受験費用の助成 200千円 見学旅行参加助成金 750千円	
	事業費(千円)	14,742	0	5,308	4,552	4,882	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	14,742		5,308	4,552	4,882		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	11,844	0	4,573	3,379	3,892	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	11,844	0	4,573	3,379	3,892		
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
		【評価・実績】					
			※事務事業評価結果 C-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 B-継続/統合	部活動関係振興事業補助 1,410千円 遠距離通学生徒通学費補助 2,488千円 資格取得受験費用の助成 75千円 学支援補助 600千円 ※事務事業評価結果 B-継続/拡充	部活動関係振興事業補助 1,410千円 遠距離通学生徒通学費補助 560千円 資格取得受験費用の助成 150千円 入学支援助成金 719千円 見学旅行参加助成金 540千円 ※事務事業評価結果 B-継続/拡充	部活動関係振興事業補助 1,410千円 遠距離通学生徒通学費補助 787千円 資格取得受験費用の助成 196千円 入学支援助成金 749千円 見学旅行参加助成金 750千円 ※事務事業評価結果 B-継続/拡充
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	1回	1回	①70%、②確保	①5施策、②50人	①5施策、②50人
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	86%	74%	80%
	全体達成率	0%	0%	31%	54%	80%	
	備考欄						

事業名	雄武高等学校存続対策事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	高橋 洋祐

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	生徒・地域住民・雄武高等学校	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	町外から雄武高等学校に通学する通学補助及び部活動支援、資格支援合格者に対する受験料等の支援								
【抱える課題やニーズは】	北海道教育委員会が少子化を背景として策定した「新たな高校教育に関する指針」により、小規模校の存続が危惧されている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	地域及び関係機関との連携を図り、地域の学校として存続を図る。町外からの生徒数を確保することにより、入学者数減少の抑制を図り、生徒数を維持する。	① 各種支援数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>5 施策</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>5 施策</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0 %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	5 施策	実績値	5 施策	達成度	100.0 %
目標年度	平成29年度										
目標値	5 施策										
実績値	5 施策										
達成度	100.0 %										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果＝目的	雄武高等学校への進学を希望している中学卒業生の進学を妨げないため、北海道が策定する「公立高等学校配置計画」において募集停止とならないよう、雄武高等学校の存続を図る。	② 資格試験合格者	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>50 人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>84 人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>168.0 %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	50 人	実績値	84 人	達成度	168.0 %
目標年度	平成29年度										
目標値	50 人										
実績値	84 人										
達成度	168.0 %										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	<p>地域別検討協議会における雄武高校の存続要望</p> <p>雄武高等学校に入学する生徒に対する経済的支援(子育て対策)</p> <p>各種支援</p>	<p>平成29年度雄武高等学校入学生は24人であり、平成30年度も雄武中学校卒業生及び他市町村からの入学生が40人を超えることが見込まれないことから、2間口の維持は難しいものと判断し、2間口維持の要請は実施していないが北海道主催の地域別検討協議会では雄武高校の存続についての要望を実施しています。</p> <p>雄武高等学校に入学する生徒の保護者に対し、制服購入代金の一部を助成しています。</p> <p>町外生徒に対し、バスの定期代及び下宿費の補助、各部活動における遠征宿泊の一部補助及び吹奏楽部の楽器購入等に係る補助、資格取得受験費用の助成、見学旅行に係る支援を実施しています。</p>									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	雄武高等学校を地域の学校として存続させるためには、入学者数の減少の抑制や魅力ある学校づくりの推進が重要であり、引続き、行政支援が必要であると判断します。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	雄武高等学校への入学者の確保は地域における雄武高校の存続対策として必要不可欠であります。各種支援事業の展開により有効性が保たれているものと判断します。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	町外生徒については、補助の有無を入学の際の判断材料としているものと思量され、今後も事業継続の必要があり、現状は、コストに見合った効果が得られていると判断します。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	生徒数の維持を図らなければ、高校存続に大きく影響することから、公平性の観点からは問題がないと判断します。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	B	
	各種支援策については一定の成果があったものの、入学者数確保のため、事業の進め方を改善しながら継続的な支援が必要であります。	



	継続/拡充	
	雄武高校通学生徒に対する各種支援は、保護者の負担軽減及び雄武高校の存続対策として実施しているものです。今後については、情勢を踏まえつつ、学校等との連携を強化しながら、学校PR活動等を展開し、生徒確保を図るとともに、新たな制度創設に向けた調査・検討を進めることとします。	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020010

政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	3	開かれた学校づくりの推進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	学校支援活動推進事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	コーディネーターの配置、学校支援ボランティアの養成及び活動支援		関係課	#N/A		
事業目標	コーディネーターの1名配置、学校支援活動、読書支援活動、部活支援活動実施		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	有		関係例規・法令名	無		
住民協働			関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	コーディネーターの配置 各種支援活動事業の実施	学校支援活動推進事業経費 報償費 500千円 旅費 50千円 需用費 50千円 役務費 83千円	学校支援活動推進事業経費 報償費 500千円 旅費 50千円 需用費 50千円 役務費 83千円	学校支援活動推進事業経費 報償費 500千円 旅費 50千円 需用費 50千円 役務費 83千円	学校支援活動推進事業経費 報償費 500千円 旅費 50千円 需用費 50千円 役務費 83千円	学校支援活動推進事業経費 報償費 120千円 需用費 34千円 役務費 86千円	
	事業費(千円)	2,972	683	683	683	683	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	2,972	683	683	683	683		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	850	162	163	152	199	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	850	162	163	152	199		
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 読書活動支援3校 学習支援6種類	(実施内容等) 読書活動支援3校 学習支援6種類	(実施内容等) 読書活動支援3校 学習支援6種類	(実施内容等) 読書活動支援4校 学習支援7種類	
	【評価・実績】		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	コーディネーターの配置(1名)、支援活動	コーディネーターの配置(1名)、支援活動	コーディネーターの配置(1名)、支援活動	コーディネーターの配置(1名)、支援活動	コーディネーターの配置(1名)、支援活動
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	24%	24%	22%	29%	73%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	5%	11%	16%	23%	29%
	備考欄						

事業名	学校支援活動推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町内小中学校	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	全学校の開設	
【抱える課題やニーズは】	学校が要望する支援内容に応じたボランティアの発掘・派遣及びコーディネーターの配置	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	地域全体で学校教育を支援する体制づくり	① 小学校4校・中学校1校	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	地域の教育力を活用することで子どもたちに多様な体験・経験の機会を提供し、効果的な教育活動を図る。	②	目標値	5校
			実績値	5校
			達成度	100.0%
			目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	ボランティア募集	学校支援ボランティアを募集し、人材確保を行った。		
	読書支援	読み聞かせ(雄武小学校、沢木小学校、豊丘小学校、共栄小学校)		
	学習支援	長期休業期間中の学習支援、スキー授業支援、柔道授業支援		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	地域全体で学校教育を支援する体制を構築するため、地域の教育力を活用した多様な教育活動の推進は、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	学校からの要望に応じたボランティアを派遣できたことにより、教育活動の充実が図られ、期待した効果が得られた。ただし、一部の要望については適当な人材が見つからず、対応できないものもあった。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	本事業は町民によるボランティア活動として実施しているとともに、学校備品等を活用していることから、可能な限り事業費の抑制に努めており、効率性は保たれている。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	本事業は、地域の教育力を活用することで学校教育を支援するものであるが、本町の将来を担う子ども達の教育に資するものであると同時に、ボランティア活動を通じた地域コミュニティの活性化も期待できることから、公平であると判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
関係機関との連携により、様々な活動に地域ボランティアが多く関わり、学校教育の充実が図られた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
地域による学校支援は、児童生徒の教育に資するだけでなく、地域コミュニティの活性化を期待できる。未配置となっているコーディネーターは、行政でその役割を担っており支援は生じていないが、引き続き適任者の確保に努めたい。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020020

政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B	
単位施策	1 推進体制の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	紋別地区高齢者交流の集い	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	研修会の実施	関係課	#N/A	
事業目標	講演会及び学習発表会	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	紋別地区高齢者交流の集い ・講演会 ・学習発表会	紋別地区高齢者交流の集い ・講演会 ・学習発表会				紋別地区高齢者交流の集い ・講演会 ・学習発表会
	事業費(千円)	200	100	0	0	0
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	200	100			
100						
実 績 事 業 費	事業費(千円)	145	45	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	145	45				
100						
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等) 講演会 学習発表会	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等) 講演会 学習発表会
	【評価・実績】	※事務事業評価結果 A-終了	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値 講演会、学習発表会				講演会、学習発表会
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	45%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	全体達成率	23%	23%	23%	23%	73%
備考欄						

事業名	紋別地区高齢者交流の集い	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	紋別地区4市町の高齢者教室参加者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	講演会、学習発表会の実施								
【抱える課題やニーズは】	日頃の学習成果を発表する機会を提供することにより、高齢者の生活に活力を与え、参加者間の交流の場を創出する。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	近隣市町村の高齢者との交流により、参加者の活動意欲及び学習意欲向上を図る。	① 講演会、学習発表会の実施	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1回</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1回</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	1回	実績値	1回	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	1回										
実績値	1回										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	高齢者が健康で生きがいある生活を送ることを目的とする。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	募集	各地区老人クラブに対し参加者を募ったほか、非加入者には新聞チラシ折込で高齢者教室の参加募集を行った。									
	講演会	テーマ「人生楽しく！笑って泣いて」(歌とトークで元気になぁ～れ！)オールド・テンブラーズ(古寺幸夫氏外4名)									
	学習発表会	コーラス・ダンス・カラオケ等									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	高齢者の学習成果発表の場を提供し、学びの場を創出することは教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	計画どおり事業を実施し、学習の発表機会及び近隣市町村の高齢者が交流する機会を提供することができた。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	アンケート結果では参加者の満足度も高く、予算範囲内で効果的に事業を実施することができた。
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

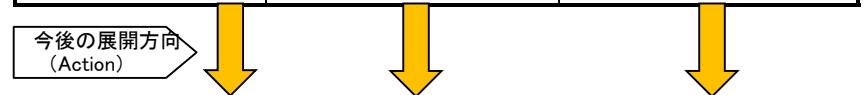
公平	判断の理由	高齢者を広く対象とした事業であり、公平性は保たれている。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
アンケート結果では参加者の満足度は高く、効果的な事業を実施することが出来た。		



継続/現状維持		
本事業は西紋地区4市町が持ち回りで開催する共同実施事業であることに加え、参加者からも好評だったことから継続とする。なお、次回の本町開催は平成33年度となる。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020030

政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B		
単位施策	1	推進体制の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	社会体育団体活動費助成事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	団体数		関係課	#N/A		
事業目標	体育連盟～20 スポーツ少年団～4		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加 住民協働	有	スポーツ団体の加入・育成	関係例規・法令名	無		
			関係個別計画名	無		

全 体 計 画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	体育連盟・スポーツ少年団の育成、活動支援に努めるとともに自主的、主体的な活動を促す。	体育連盟(400千円) スポーツ少年団(140千円)	体育連盟(400千円) スポーツ少年団(140千円)	体育連盟(400千円) スポーツ少年団(140千円)	体育連盟(400千円) スポーツ少年団(140千円)	体育連盟(400千円) スポーツ少年団(140千円)	
	体育連盟・スポーツ少年団への活動費助成						
計 画 事 業 費	事業費(千円)	2,700	540	540	540	540	
	財 源 内 訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
		一般財源	2,700	540	540	540	540
実 績 事 業 費	事業費(千円)	2,700	540	540	540	540	
	財 源 内 訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
		一般財源	2,700	540	540	540	540
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
		【評価・実績】	体育連盟 400千円 少年団 140千円	体育連盟 400千円 少年団 140千円	体育連盟 400千円 少年団 140千円	体育連盟 400千円 少年団 140千円	
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	2団体への助成	2団体への助成	2団体への助成	2団体への助成	
		年度達成率	100%	100%	100%	100%	
第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	20%	40%	60%	80%		
	備考欄						

事業名	社会体育団体活動費助成事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	体育連盟、スポーツ少年団本部	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	加盟団体の維持	
【抱える課題やニーズは】	町内の各スポーツ団体・少年団の活動活性化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町内の各スポーツ団体・少年団は、いずれも自主財源に乏しいことから、体育連盟及びスポーツ少年団本部を通じて活動費の一部を助成することにより、活発な活動を促す。	① 体育連盟加盟団体数	目標年度	平成29年度
			目標値	14 団体
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	スポーツに親しむ町民が増えるとともに、スポーツを通じて地域の活性化を図られる。	② スポーツ少年団加盟団体数	実績値	14 団体
			達成度	100.0 %
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	団体への助成	体育連盟400千円・スポーツ少年団140千円	目標年度	平成29年度
			目標値	3 団体
			実績値	3 団体
			達成度	100.0 %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町内の各スポーツ団体及び少年団は、スポーツ活動を通じた地域の活性化や将来の指導者を育成する役割を担っていることから、基幹団体となる体育連盟及びスポーツ少年団本部を通じた育成・支援は、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	体育連盟及びスポーツ少年団本部の主催事業は実施されていないが、その加盟団体は、主催事業や参加事業などを通じて主体的な活動を行っており、期待した効果が得られている。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	事業内容、予算及び決算を精査し、適正な助成を行っていることから、効率性は保たれている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

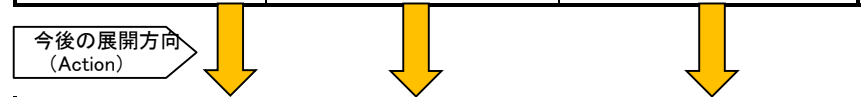
公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	本町の生涯スポーツを推進する基幹団体に対する助成であることから、公平性は保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
体育連盟及びスポーツ少年団本部の主催事業は実施されていないが、その加盟団体は活発に活動しており、本町のスポーツ振興に寄与している。		



継続/現状維持		
本町のさらなるスポーツ振興のため、各スポーツ団体・少年団の育成・支援を担う本事業は継続していく必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

No. 12020031

政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	A		
単位施策	1	推進体制の強化	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	社会教育中期計画策定事業					
事業期間	平成29年度					
事業主体	雄武町					
事業指標	計画策定					
事業目標	計画策定					
住民参加	無					
住民協働	無					
			見直し年度			
			担当課	12	教育委員会教育振興課	
			関係課	#N/A		
			ハード/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
			関係例規・法令名	有	雄武町社会教育中期計画策定委員会条例	
			関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	社会教育中期計画策定事業					第9次雄武町社会教育中期計画策定
	事業費(千円)	601	0	0	0	601
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	601				601
実 績 事 業 費	事業費(千円)	425	0	0	0	425
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	425				425
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
						※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
						一計画策定
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値				
		年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	71%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	0%	0%	0%	71%
		事業進捗状況				

事業名	社会教育中期計画策定事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	計画策定	
【抱える課題やニーズは】	第6期総合計画に掲げている目標達成のため、社会教育の分野における今後5年間の実施計画として社会教育中期計画の策定が必要となっている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	総合計画に掲げる基本施策及び単位施策に沿った具体的な事業計画の策定。	① 計画策定	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	前・後期実施計画及び社会教育中期計画に従った事業の実施により、総合計画に掲げる目標が達成される。		目標値	1計画
			実績値	1計画
			達成度	100.0%
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	第9次社会教育中期計画策定委員会設置	24名の委員による策定委員会を設置し、第8次計画の検証を基にアドバイザーの助言を頂きながら審議を行った。		
	策定委員会議の開催	全体会議3回、専門部会各2回(社会教育専門部会、芸術文化専門部会、生涯スポーツ専門部会)		
	計画作成	策定委員会の答申をふまえ、パブリックコメントを経て計画を策定した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	社会教育推進のため総合かつ体系的な社会教育中期計画の策定は、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	今後5年間の社会教育推進の設計図となる計画が完成した。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	計画策定事務は委託せずを自前で行うなど事業費の抑制に努めた結果、低予算で計画を策定することができた。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

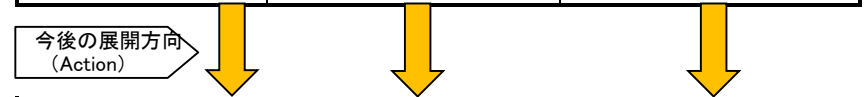
公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	全町民を対象とした計画であることから、公平性は保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価[A~D]

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
第6期総合計画に掲げる基本・単位施策を踏まえ、社会教育の分野において実施すべき施策を計画として示すことができた。		



継続/現状維持		
平成34年度に第10次雄武町社会教育中期計画を策定する必要があることから継続とする。		

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020040

政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B	
単位施策	2 学習・スポーツ活動の推進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	生涯学習推進事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	学習会、講座の開設		#N/A	
事業目標	生きがい大学、町民大学、成人講座の開催	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座	
	事業費(千円)	3,250	650	650	650	650	
	財源内訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
一般財源		3,250	650	650	650	650	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,715	454	400	322	435	
	財源内訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
		一般財源	1,715	454	400	322	435
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 生きがい大学の開催10回 町民大学の開催3回 成人講座の開催1回	(実施内容等) 生きがい大学の開催9回 町民大学の開催5回 成人講座の開催1回	(実施内容等) 生きがい大学の開催7回 町民大学の開催3回 成人講座の開催1回	(実施内容等) 生きがい大学の開催7回 町民大学の開催5回 成人講座の開催1回	
	【評価・実績】		※事務事業評価結果 Bー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Aー継続/現状維持	※事務事業評価結果 Bー継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回	生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回	生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回	生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回	生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回
		年度達成率	70%	62%	50%	67%	16%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	14%	26%	36%	50%	53%
	備考欄						

事業名	生涯学習推進事業	評価者	管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者	作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	各学級、講座の開設数及び参加人数	
【抱える課題やニーズは】	町民の学習機会の創出		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	学習機会の提供による町民の生涯学習の充実	① 生きがい大学10回 町民大学4回 成人講座2回	目標年度	平成29年度
			目標値	16回
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	生涯学習を通じた町民一人ひとりの人生の充実のみならず、その学習成果を地域社会に還元することにより、さらなる地域活性化が図られる。	② 生きがい大学500人 町民大学100人 成人講座250人	実績値	13回
			達成度	81.3%
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	生きがい大学	講演会、運動教室、移動学習会、紋別地区高齢者教室交流の集い		
	町民大学	講演会、タブレット教室、料理教室		
	成人講座	書道講座		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	最低限の学習機会の創出や学びのきっかけ作りは、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	実施回数及び参加人数は目標に到達しなかったが、アンケートの結果から参加者の満足度が高い内容で各事業を実施することができた。
	<input type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	社会教育委員の会議で講師を選定することにより、町民のニーズに即した事業内容となった他、事前の綿密な調整や講師選定により事業費を抑制することができた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
/課題あり		

(4)事務事業の公平性

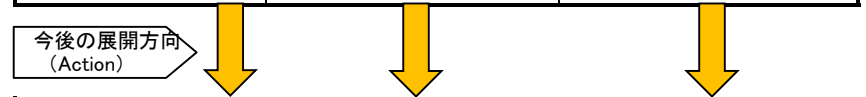
公平	判断の理由	全町民に対する学習機会の提供であることから、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平/概ね公平	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
/公平でない		

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価[A~D]

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
実施回数及び参加人数は目標に到達しなかったが、各講座終了後に参加者へのアンケートを行い、要望内容を踏まえた学習内容とするなどの工夫を行い、計画的に事業展開した。		



継続/現状維持		
参加者増に向けて、さらなる学習内容の充実と町民のニーズに沿った企画・立案を行い、今後も継続的な学習機会を提供していく。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了
- 休止
- 廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020050

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B		
単位施策	2	学習・スポーツ活動の推進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	スポーツ大会推進事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	参加団体・チーム及び人数		関係例規・法令名	無		
事業目標	普及促進9団体、雪合戦10チーム、自治会100人、キンボール15チーム		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加 住民協働	有	各大会ごとに参加者を募り開催	関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	町民の健康・体力づくりの奨励、スポーツを通じて世代間の親睦・交流を図る。	スポーツ大会の開催	スポーツ大会の開催	スポーツ大会の開催	スポーツ大会の開催	スポーツ大会の開催	
	1 さわやかスポーツ大会	1 さわやかスポーツ大会	1 さわやかスポーツ大会	1 さわやかスポーツ大会	1 さわやかスポーツ大会	1 さわやかスポーツ大会	
	2 雪合戦	2 雪合戦	2 雪合戦	2 雪合戦	2 雪合戦	2 雪合戦	
	3 自治会対抗スポーツ大会	3 自治会対抗スポーツ大会	3 自治会対抗スポーツ大会	3 自治会対抗スポーツ大会	3 自治会対抗スポーツ大会	3 自治会対抗スポーツ大会	
	4 オムリンピック	4 オムリンピック	4 オムリンピック	4 オムリンピック	4 オムリンピック	4 オムリンピック(体力測定)	
5 キンボール大会	5 キンボール大会	5 キンボール大会	5 キンボール大会	5 キンボール大会	5 キンボール大会		
計 画 事 業 費	事業費(千円)	2,000	400	400	400	400	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	2,000	400	400	400	400		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,544	331	315	323	258	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	1,544	331	315	323	258		
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) 1 さわやかスポーツ大会 2 雪合戦 3 自治会対抗スポーツ大会 4 オムリンピック 5 キンボール大会 ※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更	(実施内容等) 1 さわやかスポーツ大会 2 雪合戦 3 自治会対抗スポーツ大会 4 オムリンピック 5 キンボール大会 ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 1 さわやかスポーツ大会 2 雪合戦 3 自治会対抗スポーツ大会 4 オムリンピック 5 キンボール大会 ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 1 さわやかスポーツ大会 2 雪合戦 3 キンボール大会 ※事務事業評価結果 C-継続/内容の見直し・変更	(実施内容等) 1 さわやかスポーツ大会 2 雪合戦 3 自治会対抗スポーツ大会 4 キンボール大会 ※事務事業評価結果 C-継続/統合	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	団体・チーム34、自治会100人	団体・チーム34、自治会100人	団体・チーム34、自治会100人	団体・チーム34、自治会100人	団体・チーム34、自治会100人
		年度達成率	83%	79%	81%	65%	79%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	17%	32%	48%	61%	77%
	備考欄						

事業名	スポーツ大会推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	参加者数		
【抱える課題やニーズは】	人口減少と少子高齢化の進行によりスポーツ人口が減少傾向にあることから、本町のスポーツ活動を活性化させる必要がある。		指標(指標計算式/解説)	指標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	スポーツ大会を開催することにより、町民に運動機会を提供し、本町のスポーツ人口を増やしていく。		① 参加団体数 (さわやかスポーツ大会、雪合戦、キンボール大会)	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	スポーツに親しむ町民が増えるとともに、スポーツを通じて地域の活性化が図られる。			目標値	34 団体
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	雪合戦大会・キンボール大会	教育委員会主催により大会を開催	実績値	32 団体	
	自治会対抗スポーツ大会	雄武町・雄武町自治会連合会・雄武町教育委員会・雄武町体育連盟の共同開催により、パークゴルフ大会を開催	達成度	94.1 %	
	さわやかスポーツ大会	体育連盟加盟団体が主催する大会に対し助成(4団体)	② 参加者数 (自治会対抗スポーツ大会)	目標年度	平成29年度
			目標値	100 人	
			実績値	48 人	
			達成度	48.0 %	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	人口減少と少子高齢化の進行によりスポーツ人口が減少傾向にあることから、スポーツに親しむきっかけ作りである本事業は、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	事業内容の見直しを進めた結果、参加者増に繋がったが、目標値には達しなかった。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input checked="" type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	他団体との共催により大会開催経費の負担軽減に努めている他、自主事業では必要最小限の経費で実施しており、効率的な事業執行を行っている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

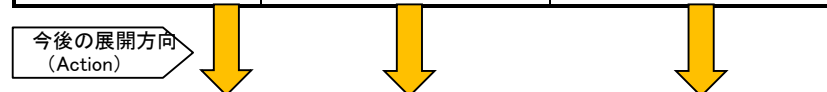
公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町民を対象としたものであることから、公平性は保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	C	
	事業はほぼ計画どおり実施することができたが、各事業の参加者数が目標値を下回っている。	



	継続/統合	
	既存事業の抜本的見直しを図るとともに、スポーツ教室推進事業と統合し、町のスポーツ活動の推進を図る。	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020060

政策目標	3 のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B	
単位施策	2 学習・スポーツ活動の推進	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	雄武町スポーツ振興事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	件数		#N/A	
事業目標	個人～2 団体～1	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加 住民協働	有 各種大会に出場する個人・団体への経費の補助	関係例規・法令名	有 雄武町スポーツ振興事業補助交付要綱	
		関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	各種スポーツの分野で全道大会以上に出場する個人・団体に対して必要経費の一部を助成する。	スポーツ振興補助	スポーツ振興補助	スポーツ振興補助	スポーツ振興補助	スポーツ振興補助
	スポーツ振興補助					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	2,377	400	400	400	777
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	2,377	400	400	400	777	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	2,630	648	181	335	826
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	2,630	648	181	335	826	
関 連 事 項	特定財源の名称	【評価・実績】	(実施内容等) パークゴルフ協会員遠征費 74千円 空手道遠征費 66千円 女子野球遠征費 105千円 高校各部活動遠征費 403千円	(実施内容等) パークゴルフ協会 51千円 高校各部活動 130千円	(実施内容等) パークゴルフ協会 29千円 高校各部活動 306千円	(実施内容等) 高校各部活動 447千円 中学女子野球 140千円 スノーボード 53千円
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 個人～2 団体～1	個人～2 団体～1	個人～2 団体～1	個人～2 団体～1	個人～2 団体～1
		年度達成率	162%	45%	84%	160%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	27%	35%	49%	76%
	備考欄					

事業名	雄武町スポーツ振興事業	評価者	管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者	作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	大会出場個人・団体数								
【抱える課題やニーズは】	全道・全国大会への出場に際し、出場者の経済的負担が大きい。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	大会出場者の経済的負担の軽減。	① 出場種目 個人	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>2人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>40人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>2000.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	2人	実績値	40人	達成度	2000.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	2人										
実績値	40人										
達成度	2000.0%										
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	高いレベルの大会への出場を促進することにより、本町スポーツ愛好者の競技に関する技術や意識の向上を図るとともに、指導者としてその技能を町民に還元してもらい、本町のスポーツの活性化を目指す。	② 出場種目 団体	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1団体</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>0団体</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>0.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	1団体	実績値	0団体	達成度	0.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	1団体										
実績値	0団体										
達成度	0.0%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	全道・全国大会出場経費の助成	全国・全道大会出場者に対し、助成を行った。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	高いレベルの大会に出場することは、出場者の競技レベルの向上につながる他、本町のPR効果も期待できることから、出場者の大会出場に係る経済的負担軽減は教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	目標を大幅に上回る制度の利用があったことから、本町スポーツ活動の活性化と競技意欲及びレベルの向上が図られている。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	申請内容を精査のうえ、実費に対して基準に基づく定率の補助を行っていることから、効率的である。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	大会成績を基準に助成していることから、公平性は保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
経済的負担を軽減することにより、全道・全国大会出場への促進効果があった。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
スポーツ活動の推進、指導者育成、大会出場者により培った技術の町民への還元、本町のPR効果など、多くの期待ができることから、継続する必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020070

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B		
単位施策	2	学習・スポーツ活動の推進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	スポーツ教室推進事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	回数及び人数		関係課	#N/A		
事業目標	学社2回50名、わんぱく7回100人、AED2回50人、ジュニア5回50人、元気アップ1回250人		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加 住民協働	有	参加者を募り開催	関係例規・法令名	無		
			関係個別計画名	無		

全 体 計 画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	生涯スポーツを目指し、各ライフステージに応じたスポーツ教室等の実施	スポーツ教室等の実施	スポーツ教室等の実施	スポーツ教室等の実施	スポーツ教室等の実施	スポーツ教室等の実施	
	1 学社融合ブルームボール教室 2 わんぱくスポーツ道場 3 AED講習会 4 ジュニアスクール 5 遊びの総合運動事業～みんな元気アップ！	1 学社融合ブルームボール教室 2 わんぱくスポーツ道場 3 AED講習会 4 ジュニアスクール 5 遊びの総合運動事業～みんな元気アップ！	1 学社融合ブルームボール教室 2 わんぱくスポーツ道場 3 AED講習会 4 ジュニアスクール 5 遊びの総合運動事業～みんな元気アップ！	1 学社融合ブルームボール教室 2 わんぱくスポーツ道場 3 AED講習会 4 ジュニアスクール 5 遊びの総合運動事業～みんな元気アップ！	1 学社融合ブルームボール教室 2 わんぱくスポーツ道場 3 AED講習会 4 ジュニアスクール 5 遊びの総合運動事業～みんな元気アップ！	1 学社融合ブルームボール教室 2 わんぱくスポーツ道場 3 AED講習会 4 ジュニアスクール 5 遊びの総合運動事業～みんな元気アップ！	1 学社融合ブルームボール教室 2 わんぱくスポーツ道場 3 AED講習会 4 ジュニアスクール 5 遊びの総合運動事業～みんな元気アップ！
	事業費(千円)	3,650	730	730	730	730	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
道支出金	0						
地方債	0						
その他	0						
一般財源	3,650	730	730	730	730		
実績事業費	事業費(千円)	2,616	674	530	572	538	
財源内訳							
国庫支出金	0						
道支出金	0						
地方債	0						
その他	0						
一般財源	2,616	674	530	572	538		
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) 1 学社融合ブルームボール教室 2 わんぱくスポーツ道場 3 AED講習会 4 ジュニアスクール 5 遊びの総合運動事業～みんな元気アップ！ ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 1 学社融合ブルームボール教室 2 わんぱくスポーツ道場 3 AED講習会 4 ジュニアスクール 5 遊びの総合運動事業～みんな元気アップ！ ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 1 学社融合ブルームボール教室 2 わんぱくスポーツ道場 3 AED講習会 4 ジュニアスクール 5 遊びの総合運動事業～みんな元気アップ！ ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 1 学社融合ブルームボール教室 2 わんぱくスポーツ道場 3 AED講習会 4 ジュニアスクール 5 遊びの総合運動事業～みんな元気アップ！ ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 1 学社融合ブルームボール教室 2 わんぱくスポーツ道場 3 AED講習会 4 遊びの総合運動事業～みんな元気アップ！ ※事務事業評価結果 B-継続/統合	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	17回 500人	17回 500人	17回 500人	17回 500人	17回 500人
		年度達成率	92%	73%	78%	74%	41%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	18%	33%	49%	63%	72%
	備考欄						

事業名	スポーツ教室推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	実施回数・参加者数								
【抱える課題やニーズは】	人口減少と少子高齢化の進行により、町民が気軽にスポーツに親しむ機会が減少している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	多くの町民がスポーツに親しむ機会が増える。	① 実施回数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>17回</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>11回</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>64.7%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	17回	実績値	11回	達成度	64.7%
目標年度	平成29年度										
目標値	17回										
実績値	11回										
達成度	64.7%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	町民がスポーツに親しむ機会が増えることにより、健康増進やスポーツを通じた交流が図られる。	② 参加者数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>500人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>222人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>44.4%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	500人	実績値	222人	達成度	44.4%
目標年度	平成29年度										
目標値	500人										
実績値	222人										
達成度	44.4%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	学社融合ブルームボール教室・わんぱくスポーツ道場	小学生を対象とし、ブルームボール教室及びかけっこ教室を開催。									
	AED講習会	町民を対象とした、自動体外式除細動器(AED)及び応急手当講習会を開催。									
	遊びの総合運動事業～みんな元気アップ!	ライフステージに応じた運動教室を開催。(成人4回、高齢者2回)									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	人口減少と少子高齢化の進行によりスポーツ人口が減少傾向にあることから、スポーツに親しむきっかけ作りである本事業は、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	参加者の年齢層に応じた多様な教室を開催し、参加者からのアンケートも満足度の高い結果となったが、実施回数及び参加者数は目標に達することができなかった。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
	<input checked="" type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	町内在住者を指導者とする事で事業費抑制に努めた他、町外から指導者を招へいする際も、様々な人脈を活用することにより事業費を抑制することができた。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

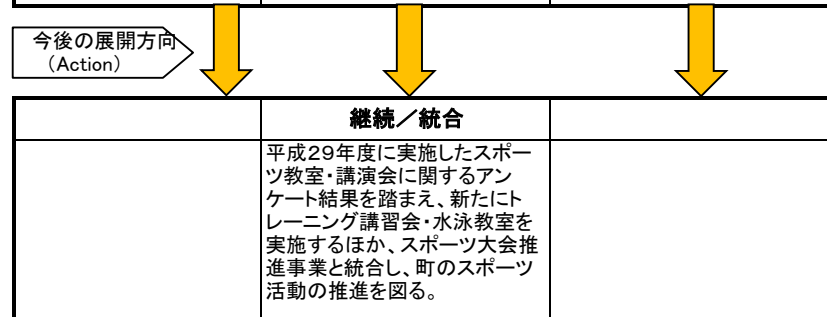
公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	全町民を対象としており、広く参加を呼びかけていることから、公平性は保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	B	
	多様な教室を実施し、参加者からは好評であったが、目標に至らなかった。	



※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020090

政策目標	3 のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B	
単位施策	2 学習・スポーツ活動の推進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	スポーツイベント参加助成金	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	9 産業振興課	
事業指標	オホーツクサイクリングへの町民の参加支援		#N/A	
事業目標	参加者の確保	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有 雄武町スポーツイベント参加助成金交付要綱	
住民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	オホーツクサイクリング参加費の一部助成	小学生8名×3千円(24千円) 中学生9名×5千円(45千円) 高校生3名×7千円(21千円) 一般20名×5千円(100千円)	小学生8名×3千円(24千円) 中学生9名×5千円(45千円) 高校生3名×7千円(21千円) 一般20名×5千円(100千円)	小学生8名×3千円(24千円) 中学生9名×5千円(45千円) 高校生3名×7千円(21千円) 一般20名×5千円(100千円)	小学生8名×5千円(40千円) 中学生7名×5千円(35千円) 高校生2名×7千円(14千円) 一般20名×5千円(100千円)	小学生8名×5千円(40千円) 中学生9名×5千円(45千円) 高校生3名×7千円(21千円) 一般20名×5千円(100千円)	小学生8名×5千円(40千円) 中学生4名×5千円(20千円) 高校生3名×7千円(21千円) 一般20名×5千円(100千円)
	事業費(千円)	955	190	190	189	206	180
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
地方債	0						
その他	0						
一般財源	955	190	190	189	206	180	
実績事業費	事業費(千円)	612	143	127	110	113	119
財源内訳							
国庫支出金	0						
道支出金	0						
地方債	0						
その他	0						
一般財源	612	143	127	110	113	119	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 参加助成 小学生 8名 中学生 7名 高校生 2名 一般 13名	(実施内容等) 参加助成 小学生 4名 中学生 6名 一般 17名	(実施内容等) 参加助成 小学生 2名 中学生 3名 高校生 5名 一般 10名	(実施内容等) 参加助成 小学生 5名 高校生 4名 一般 12名	(実施内容等) 参加助成 小学生 4名 中学生 2名 高校生 2名 一般 15名
	【評価・実績】		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 C-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	40名	40名	37名	40名	40名
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率		75%	67%	58%	55%
	全体達成率		15%	28%	40%	52%	64%
	備考欄						

事業名	スポーツイベント参加助成金	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	助成者数	
【抱える課題やニーズは】	オホーツクサイクリングに参加する町民の減少。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	参加費の一部を助成することにより、町民のオホーツクサイクリングへの参加を促す。	① 助成者数	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	オホーツクサイクリング参加者の増加による大会の盛り上がり、大会を通じた町の活性化を目的とする。		目標値	40人
			実績値	23人
			達成度	57.5%
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	オホーツクサイクリング参加費助成	町内からの大会参加者に対し、参加費の一部を助成。(助成額 小学生5千円、中学生5千円、高校生7千円、一般5千円))		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	オホーツクサイクリングは歴史ある事業であり、町のメインイベントのひとつであるが、近年は参加者が減少傾向にあることから、町民の参加促進を図るため助成を行なう必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	本事業の対象者(町内からの参加者)全員に助成を行ったが、目標には到達しなかった。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	参加資格区分ごとの参加費用に応じた定額の補助であることから、効率的である。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	大会に参加可能な全町民を対象としていることから、公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	B	
	オホーツクサイクリングに参加しやすい環境を整えることができたが、参加者の増加という目的を達成することはできなかった。	

今後の展開方向
(Action)

	継続/内容の見直し・変更	
	参加者増を図るため、助成額及び助成対象コースの拡充など、内容について検討を行う。	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020100

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B		
単位施策	3	青少年教育の推進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	武雄市児童交流事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	武雄市への児童派遣及び受け入れ		ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業		
事業目標	派遣児童16名、引率者4名及び受け入れ児童16名		関係例規・法令名	無		
住民参加	無		関係個別計画名	無		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容		事業内容		事業内容	
計 画 内 容	武雄市への児童派遣及び受け入れ 武雄市児童用防寒着購入	派遣 経費 旅費 900千円 需用費 40千円 食糧費 30千円 消耗品 10千円 役務費 30千円 負担金 1,700千円 受入 経費 報償費 40千円 旅費 3千円 需用費 200千円 使用料 27千円	派遣 経費 旅費 900千円 需用費 40千円 食糧費 30千円 消耗品 10千円 役務費 30千円 負担金 1,700千円 受入 経費 報償費 40千円 旅費 3千円 需用費 200千円 使用料 27千円	派遣 経費 旅費 900千円 需用費 40千円 食糧費 30千円 消耗品 10千円 役務費 30千円 負担金 1,700千円 受入 経費 報償費 40千円 旅費 3千円 需用費 200千円 使用料 27千円	派遣 経費 旅費 900千円 需用費 40千円 食糧費 30千円 消耗品 10千円 役務費 30千円 負担金 1,700千円 受入 経費 報償費 40千円 旅費 3千円 需用費 200千円 使用料 27千円 備品購入費 970千円	派遣 経費 報償費 10千円 旅費 640千円 需用費 40千円 使用料 8千円 負担金 1,733千円 受入 経費 報償費 30千円 旅費 3千円 需用費 199千円 使用料 17千円	
	事業費(千円)	15,570	2,980	2,980	2,980	3,950	2,680
計 画 事 業 費	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	2,400	480	480	480	480	
	一般財源	13,170	2,500	2,500	2,500	3,470	2,200
実 績 事 業 費	事業費(千円)	12,149	2,155	2,653	2,367	2,940	2,034
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	1,830	300	480	300	390	360
一般財源	10,319	1,855	2,173	2,067	2,550	1,674	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 武雄市への児童派遣 引率者4名、児童10名 ・学校交流、ホームステイ等 武雄市児童受入 引率者4名、児童16名 ・学校交流、ホームステイ等 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 武雄市への児童派遣 引率者4名、児童16名 ・学校交流、ホームステイ等 武雄市児童受入 引率者4名、児童16名 ・学校交流、ホームステイ等 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 武雄市への児童派遣 引率者4名、児童10名 ・学校交流、ホームステイ等 武雄市児童受入 引率者4名、児童16名 ・学校交流、ホームステイ等 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 武雄市への児童派遣 引率者4名、児童13名 武雄市児童受入 引率者4名、児童16名 防寒着購入 引率者用4着、児童用16着 バナナボート購入 2台 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 武雄市への児童派遣 引率者4名、児童12名 ・学校交流、ホームステイ等 武雄市児童受入 引率者4名、児童16名 ・学校交流、ホームステイ等 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	武雄市児童交流事業参加者負担金	【評価・実績】	派遣員等20名、受け入れ児童16名	派遣員等20名、受け入れ児童16名	派遣員等20名、受け入れ児童16名	派遣員等20名、受け入れ児童16名	派遣員等20名、受け入れ児童16名
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	72%	89%	79%	74%	76%
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	14%	31%	46%	65%	78%
		全体達成率					
	備考欄						

事業名	武雄市児童交流事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内小学生(5年生・6年生)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	派遣児童16人、引率者4人 受入児童16人、引率者4人								
【抱える課題やニーズは】	異なる地域の文化や生活を体験する機会や、児童による地域間交流を行なう機会の不足。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	児童の健全育成及び児童による地域間交流の推進。	① 派遣児童及び引率者	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>20人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>16人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>80.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	20人	実績値	16人	達成度	80.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	20人										
実績値	16人										
達成度	80.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果＝目的	本町の将来を担う人材の育成と、友好都市である佐賀県武雄市との地域間交流のさらなる発展。	② 受入児童及び引率者	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>20人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>20人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	20人	実績値	20人	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	20人										
実績値	20人										
達成度	100.0%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	派遣	本町児童13人・引率者4人を派遣し、学校交流、ホームステイ等を体験									
	受入	武雄市児童16人・引率者4人を受入れ、学校交流、ホームステイ等を提供									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	児童の健全育成と地域間交流促進のため、本事業の実施は必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	派遣児童数は目標に達しなかったが、参加した児童は本町と大きく異なる環境で様々な経験をしたことから、期待した効果が得られた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> 達成	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	複数旅行代理店による見積合わせや、航空券の早期発注により経費削減に努めた。
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	参加者は町内小学生5・6年生に限定されるが、希望者については等しく参加を認めているとともに、適切な受益者負担を求めており、公平性は保たれている。
公平/概ね公平	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
派遣児童数が目標値を下回ったが、児童の健全育成と地域間交流の推進という事業の目的は達成できた。 なお、本町の児童数に対して過大な目標値が設定されているが、ホームステイの都合上、武雄からの派遣児童数と調整する必要があり、目標値の変更は困難。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
次代を担う青少年の育成と地域間交流推進のため、今後も継続が必要である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020110

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B		
単位施策	3	青少年教育の推進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	家庭教育推進事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	町内各学校での取り組み		関係別計画名	#N/A		
事業目標	全学校での開催		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加 住民協働	有	PTAとの協働	関係例規・法令名	無		
			関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	
	事業費(千円)	1,900	400	400	400	300	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	1,900	400	400	400	300		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	757	254	211	138	54	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	757	254	211	138	54		
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) 各学校の学級開設助成支援 開設学級2学級 家庭教育講演会 参加者61名 家庭教育映画会 参加者113名 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 各学校の学級開設助成支援 開設学級1学級 家庭教育講演会 参加者103名 ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 各学校の学級開設助成支援 開設学級 2学級 家庭教育講演会 参加者 76名 ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 各学校の学級開設助成支援 開設学級2学級 家庭教育講演会 参加者82名 ※事務事業評価結果 C-継続/内容の見直し・検討	(実施内容等) 家庭教育講演会 参加者 58名 ※事務事業評価結果 C-継続/内容の見直し・検討	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	全校の開催	全校の開催	全校の開催	全校の開催	全校の開催
	年度達成率	64%	53%	35%	14%	33%	
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	13%	24%	32%	35%	40%
	備考欄						

事業名	家庭教育推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	小学生・中学生及びその保護者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	学級数と参加者数								
【抱える課題やニーズは】	家庭における学びの場が不足している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	家庭教育に関する学びの場を創出することで 家庭の教育力を向上させる。	① 開設学級	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>13学級</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>0学級</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>0.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	13学級	実績値	0学級	達成度	0.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	13学級										
実績値	0学級										
達成度	0.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	家庭の教育力向上による児童の健全育成と家庭を取り巻く地域づくりの推進。	② 学級及び講演会等参加者数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>300人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>58人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>19.3%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	300人	実績値	58人	達成度	19.3%
目標年度	平成29年度										
目標値	300人										
実績値	58人										
達成度	19.3%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	家庭教育講演会	雄武町PTA連合会との共催による講演会の実施。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	家庭教育に関する学びの場を提供し、PTAが行う家庭教育事業に対する支援は、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

課題あり	設定した目標値の達成状況	PTA連合会との共催により講演会を開催し、学びの場を提供することができたが、家庭教育学級については開設学級、参加者数ともに目標を下回り、期待する効果は得られなかった。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	講演会については計画どおり実施され、参加者へのアンケート結果からも満足度が高い内容だったと判断できる。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	講演会については、誰でも参加できる内容であることから、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	C	
	講演会については計画どおり開催し、参加者の満足度も高いものとなったが、開設学級数及び参加者数ともに目標を達成できなかった。	

今後の展開方向
(Action)

	継続/内容の見直し・変更	
	家庭教育学級について周知を徹底し利用増を目指すほか、家庭教育学級の利用状況を鑑み他の政策事業と統合を検討するなど、利用者のニーズに応じた事業展開を図る。	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020140

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B		
単位施策	5	生涯教育施設・備品の有効活用	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	社会体育施設委託業務事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	委託施設数		関係課	#N/A		
事業目標	4施設		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	各施設の管理業務を委託し、適切な維持管理を図る。	各施設の管理業務委託	各施設の管理業務委託	各施設の管理業務委託	各施設の管理業務委託	各施設の管理業務委託
	1 風の丘スキー場維持管理委託	1 風の丘スキー場	1 風の丘スキー場	1 風の丘スキー場	1 風の丘スキー場	1 風の丘スキー場
	2 宮の森パークゴルフ場維持管理委託(芝購入)	2 宮の森パークゴルフ場(芝購入)	2 宮の森パークゴルフ場	2 宮の森パークゴルフ場	2 宮の森パークゴルフ場	2 宮の森パークゴルフ場
	3 農村広場維持管理委託	3 農村広場	3 農村広場	3 農村広場	3 農村広場	3 農村広場
4 ブルームボールコート造成維持管理委託	4 ブルームボールコート	4 ブルームボールコート	4 ブルームボールコート	4 ブルームボールコート	4 ブルームボールコート	
計 画 事 業 費	事業費(千円)	38,005	7,000	7,845	7,845	7,470
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	38,005	7,000	7,845	7,845	7,470	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	35,569	6,386	6,964	7,624	7,407
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	35,569	6,386	6,964	7,624	7,188	
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等) 各体育施設の管理委託業務	(実施内容等) 各施設の管理業務委託	(実施内容等) 各施設の管理業務委託	(実施内容等) 各施設の管理業務委託	(実施内容等) 各施設の管理業務委託
	【評価・実績】					
	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 4施設	4施設	4施設	4施設	4施設
第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 91%	89%	97%	92%	99%	
	全体達成率 17%	35%	55%	74%	94%	
	備考欄					

事業名	社会体育施設委託業務事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	各社会体育施設	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	4施設								
【抱える課題やニーズは】	施設を良好な状態に維持管理し、町民の利用に供する。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	民間活力の活用による効率的な体育施設の維持管理と、民間企業が持つ柔軟性を取り入れたより良いサービスの提供。	① 風の丘スキー場 宮の森・風の丘パークゴルフ場 農村広場 ブルームボールコート	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>4施設</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>4施設</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	4施設	実績値	4施設	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	4施設										
実績値	4施設										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	維持管理コストを抑制することで町の財政的負担を軽減するとともに、利用者に対してより良いサービスが提供される。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	各体育施設の管理委託	風の丘スキー場、宮の森・風の丘パークゴルフ場、農村広場、ブルームボールコート									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	各体育施設はいずれも不特定多数の利用があり、受付・備品貸出等の業務が発生することから、管理人の常駐は必要である。また、民間活力を活用した効率的な維持管理のため、本事業は必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	施設の安全管理が十分行われており、良好な状態を保持している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
有効/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	指名競争入札及び見積合せにより業者選定を行い、適切なコストで事業を行うことができた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	全町民を利用対象とする施設の維持管理業務であることから、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平/不公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
施設の適切かつ効率的な維持管理が図られた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
施設の維持管理が適切かつ効率的に行われていることから、継続していく必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020150

政策目標	3 のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	A	
単位施策	5 生涯教育施設・備品の有効活用	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	スポーツセンター整備事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	施設整備	関係課	#N/A	
事業目標	備品整備、アンケート実施・集計、整備の方向性検討、方向性決定	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働	無	関係個別計画名	無	

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	体育施設アンケート実施・集計 スポーツセンター整備の方向性検討・決定 スポーツセンター設備整備 1 アリーナカーテン取替 2 備品整備 ・卓球台 ・各種目ボール ・雪合戦用ヘルメット ・レクリエーション用品 ・スポーツタイマー ・スチームクリーナー	体育施設アンケート実施・集計 アリーナカーテン取替 備品整備 ・卓球台 ・各種目ボール ・雪合戦用ヘルメット ・レクリエーション用品 ・スポーツタイマー ・スチームクリーナー	スポーツセンター整備の方向性検討	スポーツセンター整備に関する調査・研究	スポーツセンター整備に関するアンケート実施・集計	スポーツセンター整備に関する調査・研究
	事業費(千円) 3,115 財源内訳 国庫支出金 0 道支出金 0 地方債 0 その他 0 一般財源 3,115	3,000 3,000	0	0	115	0
実 績 事 業 費	事業費(千円) 2,358 財源内訳 国庫支出金 0 道支出金 0 地方債 0 その他 0 一般財源 2,358	2,358 2,358	0	0	0	0
	特定財源の名称 【評価・実績】	(実施内容等) 体育施設アンケート実施・集計 アリーナカーテン取替 備品整備 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) アンケート集計・方向性検討 ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 調査・研究 ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) アンケート未実施 ※事務事業評価結果 C-継続/内容の見直し・変更	(実施内容等) 調査・研究 ※事務事業評価結果 C-継続/統合
関 連 事 項	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 79%	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	#DIV/0!
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率 76%	76%	76%	76%	76%
	備考欄					

事業名	スポーツセンター整備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	調査・研究								
【抱える課題やニーズは】	スポーツセンターの施設・設備の老朽化が進んでいる。										
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	計画的かつ適切な整備による、良好な施設環境の維持。										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果＝目的	本町のスポーツ活動の拠点となる施設を、良好な状態に維持することにより、町民のスポーツ活動の活性化に寄与する。										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
		①	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1式</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>0式</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>0.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	1式	実績値	0式	達成度	0.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	1式										
実績値	0式										
達成度	0.0%										
		②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0!%										

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	老朽化や経年劣化による施設や備品の破損等がみられ、放置することは施設利用に支障をきたす恐れがあることから、施設の改修や設備・備品の更新は必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

課題あり	設定した目標値の達成状況	現状として、施設の老朽化などによる施設設備の破損や不良の件数が顕著であることから、既存施設の有効活用も含めた体育施設のあるべき方向性について調査・研究する必要がある。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成
	<input checked="" type="checkbox"/>	下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

課題あり	判断の理由	調査・研究を行う予定であったが、実施には至らなかった。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制
	<input type="checkbox"/>	人員削減
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減
	<input type="checkbox"/>	その他

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	広く町民が利用する社会体育施設を対象とした事業であることから、公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る
	<input type="checkbox"/>	その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	C	
	スポーツ推進委員会議内でスポーツセンターの現状や課題について意見を聴取し協議を行ったが、調査・研究実施には至らなかった。	

今後の展開方向
(Action)

	継続/統合	
	第6期総合計画においては、スポーツセンター整備事業を、体育施設整備事業に統合し、町民のニーズに応じた計画的な施設改修等を検討していく。	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020161

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	A		
単位施策	5	生涯教育施設・備品の有効活用	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	体育施設整備事業		見直し年度			
事業期間	平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	施設整備			#N/A		
事業目標	施設整備		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

		全 体 計 画	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	体育施設整備					風の丘スキー場リフト制御盤修繕 540千円	風の丘スキー場管理棟屋根・外壁改修工事 3,608千円 農村広場備品購入 113千円 テニスコート防風ネット購入 301千円
	スポーツセンター 武道センター 農村広場 パークゴルフ場 風の丘スキー場 テニスコート ブルームボールコート						
計 画 事 業 費	事業費(千円)	4,562	0	0	0	540	4,022
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債 その他 一般財源	0 0 4,562					540 4,022
実 績 事 業 費	事業費(千円)	4,492	0	0	0	540	3,952
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債 その他 一般財源	0 0 4,492					540 3,952
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					風の丘スキー場リフト制御盤修繕	風の丘スキー場管理棟屋根・外壁改修工事 農村広場備品購入 テニスコート防風ネット購入
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値				修繕の実施	工事・備品購入の実施
第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100%	98%	
	全体達成率	0%	0%	0%	12%	98%	
	事業進捗状況						

事業名	体育施設整備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	工事及び備品購入の実施								
【抱える課題やニーズは】	体育施設の建物及び設備の老朽化が進んでいる。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	計画的かつ適切な整備による、良好な施設環境の維持。	① 工事 1件 備品購入 2件	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>3件</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>3件</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	3件	実績値	3件	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	3件										
実績値	3件										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	本町のスポーツ活動の拠点となる施設を、良好な状態に維持することにより、町民のスポーツ活動の活性化に寄与する。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	風の丘スキー場管理棟屋根・外壁改修工事	スキー場管理棟の屋根及び外壁の修繕及び塗装									
	農村広場備品購入	球場用ライン引き及びベース購入									
	テニスコート防風ネット購入	テニスコート用防風ネット購入									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	老朽化や経年劣化による施設や備品の破損等がみられ、放置することは施設利用に支障をきたす恐れがあることから、施設の改修や設備・備品の更新は必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	施設及び設備の適切な維持管理が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	指名競争入札及び見積合せにより業者選定を行い、適切なコストで事業を実施することができた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	広く町民が利用する社会体育施設を対象とした事業であることから、公平である。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A	
	計画どおり施設の改修及び備品の更新を行い、施設環境が改善された。	

今後の展開方向
(Action)

	継続/現状維持	
	町内の社会体育施設は、いずれも老朽化が顕著であることから、平成31年度策定予定の教育施設長寿命化計画を基に、町民のニーズに応じた計画的な施設改修等を検討していく。	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020183

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	A		
単位施策	5	生涯教育施設・備品の有効活用	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	町民センター施設整備事業		見直し年度			
事業期間	平成27年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	施設整備		関係課	#N/A		
事業目標	施設整備		ハード／ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

		全 体 計 画 事 業 内 容	平成 25 年度 事 業 内 容	平成 26 年度 事 業 内 容	平成 27 年度 事 業 内 容	平成 28 年度 事 業 内 容	平成 29 年度 事 業 内 容
計 画 内 容	町民センター施設整備				街路灯改修(2基)	紙折り機購入 180千円 レーザープリンター購入 230千円 自動ドア修繕 630千円	非常用照明器具交換 757千円 電気工作物撤去及び交換工事 929千円 ガスボンベ保管庫扉修繕 694千円 婦人教養室暖房機購入 519千円
	街路灯改修(2基) 紙折り機購入 レーザープリンター購入 自動ドア修繕						
計 画 事 業 費	事業費(千円)	4,829	0	0	890	1,040	2,899
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	4,829			890	1,040	2,899	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	4,607	0	0	880	938	2,789
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	4,607			880	938	2,789	
	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		【評価・実績】			街路灯改修(2基)	紙折り機購入 レーザープリンター購入 自動ドア修繕	非常用照明器具交換 電気工作物撤去及び交換工事 ガスボンベ保管庫扉修繕 婦人教養室暖房機購入
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値			街路灯改修(2基)	備品購入、自動ドア修繕	修繕・工事・備品購入の実施
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	99%	90%	96%
		全体達成率	0%	0%	18%	38%	95%
		備考欄					

事業名	町民センター施設整備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民センター	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	修繕・工事及び備品購入の実施	
【抱える課題やニーズは】	町民センターの建物及び設備の老朽化が進んでいる。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	計画的かつ適切な整備による、良好な施設環境の維持。	① 非常用照明器具交換 電気工作物撤去及び交換 工事 ガスボンベ保管庫扉修繕	目標年度	平成29年度
			目標値	3件
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	本町の社会教育活動の拠点となる施設を、良好な状態に維持することにより、本町の社会教育活動の活性化に寄与する。	② 婦人教養室暖房機購入	実績値	3件
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	非常用照明器具交換、電気工作物撤去及び交換工事 ガスボンベ保管庫扉修繕	非常用照明器具の交換、電気工作物の撤去及び交換、ガスボンベ保管庫の扉修繕		
	婦人教養室暖房機購入	温風式暖房機及び灯油タンクの購入		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	老朽化や経年劣化による施設や備品の破損等がみられ、放置することは施設利用に支障をきたす恐れがあることから、施設の改修や設備・備品の更新は必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	施設及び設備の適切な維持管理が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	見積合せにより業者選定を行い、適切なコストで事業を実施することができた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民広くが利用する社会教育施設を対象とした事業であることから、公平である。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A	
	計画どおり施設・設備の改修及び備品の更新を行い、施設環境が改善された。	

今後の展開方向
(Action)

	継続/現状維持	
	町民センターは老朽化が顕著であることから、平成31年度策定予定の教育施設長寿命化計画を基に、町民のニーズに応じた計画的な施設改修等を検討していく。	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020184

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 極めて専門的知識を要し、資料整理及び復元経費などを把握する必要があるため、専門職員を交えながら分析・調査を進める必要ががる。
基本施策	14	芸術・文化の振興	事業優先度	C		
単位施策	1	歴史文化の保存と継承	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	郷土資料保存・展示調査事業		見直し年度			
事業期間	平成26年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	郷土資料250点の分析・調査		関係課	#N/A		
事業目標	郷土資料の区分整理・データ集計		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	郷土資料の調査 ・専門員の分析 ・保存資料の調査 ・保存資料の区分整理 ・保存資料のデータ集計作成 ・方向性の検討		郷土資料の調査 ・専門員の分析 ・保存資料の調査	郷土資料の調査 ・保存資料の調査	郷土資料の調査 ・専門員の分析・調査 ・保存資料の区分整理 ・保存資料のデータ集計作成	郷土資料の調査 ・資料の保存、展示方法に 関する調査、研究 ・道内博物館、郷土資料館視察	
	計 画 事 業 費	事業費(千円) 132	0	100	0	0	32
実 績 事 業 費	財 源 内 訳	国庫支出金 0					
	道 支 出 金	0					
	地 方 債	0					
	そ の 他	0					
	一 般 財 源	132	100	0	0	32	
実 績 事 業 費	財 源 内 訳	事業費(千円) 357	0	0	0	357	0
	国 庫 支 出 金	0					
	道 支 出 金	0					
	地 方 債	0					
	そ の 他	0					
一 般 財 源	357	0	0	0	357		
特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等) 保存資料の調査	(実施内容等) 保存資料の調査	(実施内容等) 郷土資料の調査 ・専門員の分析・調査 ・保存資料の区分整理 ・保存資料のデータ集計作成	(実施内容等) 郷土資料の調査 ・資料の保存、展示方法に 関する調査、研究 ・道内博物館、郷土資料館視察	
	【評価・実績】	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 C-内容の見直し・変更 保存資料の分析・調査	※事務事業評価結果 C-内容の見直し・変更 保存資料の分析・調査	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持 保存資料の区分整理・資料集計	※事務事業評価結果 A-終了 保存資料の整理・資料集計・方向性の検討	
前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値						
第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	0%	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	
	全体達成率	0%	0%	0%	270%	270%	
	備考欄						

事業名	郷土資料保存・展示調査事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	郷土資料	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	展示方法及び保管方法調査								
【抱える課題やニーズは】	平成31年度オープン予定の新図書館における郷土資料の展示に向けた、資料の整理・保存方法、展示方法について、情報が不足している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	郷土資料の整理・保存と展示について効果的な手法を学ぶ。	① 調査	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1式</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1式</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	1式	実績値	1式	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	1式										
実績値	1式										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果＝目的	新図書館における郷土資料の効果的な展示を実現する他、様々な学習機会での活用を目指す。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	道内博物館視察	北海道大学博物館、北海道博物館、枝幸博物館を視察し、資料の保存・展示・活用方法を学んだ。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民から寄贈を受けた貴重な郷土資料の保存や展示、それらの様々な学習機会でも活用は、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	視察先の学芸員から有用な情報提供・助言を得たことから、適切な調査を行うことができた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	本事業に係る経費は定型の旅費のみであることから、効率的である。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	今後予定している郷土資料の利活用のための調査であり、新図書館において展示された際には、全町民が鑑賞対象となることから公平である。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
視察により有用な情報を得ることができ、郷土資料の保存・展示・活用方法を学んだ。		

今後の展開方向
(Action)

終了		
平成28・29年度の2か年で計画されていた事業は全て完了し、新図書館での郷土資料展示についても設計業務が完了したことから、本事業は終了となる。		

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

No. 12020185

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	14	芸術・文化の振興	事業優先度	B		
単位施策	1	歴史文化の保存と継承	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	幌内史跡公園整備補助事業		見直し年度			
事業期間	平成29年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	補助による施設整備		関係課	#N/A		
事業目標	補助による施設整備		ハード/ソフト 事業区分	1	ハード事業	
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	幌内史跡公園整備補助					補助金(幌内自治会)
	事業費(千円)	256	0	0	0	256
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	256				256	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	252	0	0	0	252
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	252				252	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
						補助金(幌内自治会)
						※事務事業評価結果 A-終了
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値				
		年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	0%	0%	0%	0%
		事業進捗状況				98%
						98%

事業名	幌内史跡公園整備補助事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	幌内自治会への補助	
【抱える課題やニーズは】	幌内史跡公園敷地内施設が老朽化しており、危険な状態にある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	幌内史跡公園敷地内施設の修繕を行い、危険を解消する。	① 補助(幌内自治会)	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	長期間の利用に堪える、良好な施設環境を実現する。		目標値	1式
			実績値	1式
			達成度	100.0%
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	補助金の支出	幌内自治会が行う幌内史跡公園敷地内施設の修繕に対して補助を行った。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	慰霊碑及び地蔵堂は浄財で建立されたものだが、所有者が不明かつ管理者がいない状態にあることから、地域の幌内自治会が修繕対応することとなった経緯があり、町としてはこれを支援する必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	幌内自治会との協働により、目的を達成することが出来た。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	実施計画と見積書を精査した上で補助を行っており、効率的である。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町内の公園内施設に係る修繕の補助であり、施設の安全性を確保することを目的としていることから、公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A	
	計画どおり幌内自治会に補助を行い、幌内史跡公園敷地内施設の修繕を完了することが出来た。	

今後の展開方向
(Action)

	終了	
	幌内史跡公園敷地内施設の修繕という目的を達したことから、本事業は終了となる。	

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020190

政策目標	3 のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	14 芸術・文化の振興	事業優先度	B	
単位施策	2 芸術・文化活動の促進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	芸術文化公演事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	8 保育所	
事業指標	芸術文化鑑賞機会の充実		#N/A	
事業目標	保育所・親子、小・中・高等学校・一般鑑賞会の開催	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会 文化講演会事業の開催(隔年開催)	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会 文化講演会事業の開催(隔年開催)	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会 文化講演会事業の開催(隔年開催)	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会 文化講演会事業の開催(隔年開催)	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会 文化講演会事業の開催(隔年開催)	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会 文化講演会事業の開催(隔年開催)	
	事業費(千円)	17,000	4,600	1,600	4,600	1,600	4,600
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	300	100		100		100
一般財源	16,700	4,500	1,600	4,500	1,600	4,500	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	12,453	2,621	1,200	3,932	1,599	3,101
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	137	26		111			
一般財源	12,316	2,595	1,200	3,821	1,599	3,101	
関 連 事 項	特定財源の名称						
	入場料徴収	【評価・実績】	(実施内容等) 保育所・小学1～2年生親子一般(154名) 小学3～6年生(177名) 中学・高校・一般(289名) 文化講演会(50名)	(実施内容等) 保育所・小学校・一般 458名 中学生 117名 高校生 226名	(実施内容等) 保育所・小学1～2年生親子一般(202名) 小学3～6年生(153名) 中学・高校・一般(327名) 文化講演会(286名)	(実施内容等) 保育所・小学1～2年生親子一般(200名) 小学3～6年生(145名) 中学・高校・一般(229名)	(実施内容等) 保育所・小学1～2年生親子一般(185名) 小学3～6年生(155名) 中学・高校・一般(229名) 文化講演会(265名)
			※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	保育所等小中高一般の鑑賞会開催	保育所等小中高一般の鑑賞会開催	保育所等小中高一般の鑑賞会開催	保育所等小中高一般の鑑賞会開催	保育所等小中高一般の鑑賞会開催
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	57%	75%	85%	100%	67%
	全体達成率	15%	22%	46%	55%	73%	
	備考欄						

事業名	芸術文化公演事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	鑑賞会回数								
【抱える課題やニーズは】	過疎地域であり、都会から離れたところにある本町の住民は、様々な芸術・文化に触れる機会が不足している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	様々な芸術・文化に触れる機会を創出し、町民の芸術・文化に対する興味や理解を促進する。	① 開催回数(芸術鑑賞会)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>4回</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>4回</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	4回	実績値	4回	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	4回										
実績値	4回										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	町民の芸術・文化活動への興味や理解が深まり、町の文化的な取組が活性化する。	② 開催回数(文化講演会)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1回</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1回</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	1回	実績値	1回	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	1回										
実績値	1回										
達成度	100.0%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	芸術鑑賞会の開催	保育所・小学校1~2年・親子一般、小学校3~6年、中学校・高校・一般									
	文化講演会の開催	東国原英夫氏講演会									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民の芸術・文化に対する興味や理解を高めるため、様々な芸術・文化に触れる機会を創出することは、生涯学習推進の一環として必要な取組である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	芸術鑑賞会では各年齢層に応じた鑑賞機会を提供することができ、アンケート結果から満足度の高い内容で実施することができた。また、著名な講師を招いた文化講演会には、多くの町民が来町した。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	予算内で計画どおり実施することが出来た。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	幅広い年齢層を対象としていることから公平である。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
町民の芸術・文化への興味や関心が生まれ、芸術・文化活動に対する理解を深めることができた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
芸術・文化活動の機会を創出することは、生涯学習推進の一環として必要な取組であることから、今後も継続していく必要がある。		

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020200

政策目標	3 のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	14 芸術・文化の振興	事業優先度	B	
単位施策	2 芸術・文化活動の促進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	陶芸推進事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	工房利用者への支援及び作陶技術の向上	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
事業目標	管理体制と愛好者への指導及び普及推進	関係例規・法令名	無	
住民参加	有	関係個別計画名	無	
住民協働				

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	工房施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催	工房施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催	工房施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催	工房施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催 ガス窯修繕(バーナー一部分等)	工房施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催 ペーパライザー更新 (平成29年度へ繰越)2,042千円	工房施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催 ペーパライザー更新 (平成28年度からの繰越事業)
	事業費(千円)	6,222	800	800	910	2,842
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	6,222	800	800	910	2,842	870
実 績 事 業 費	事業費(千円)	6,400	898	842	986	782
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	6,400	898	842	986	782	2,892
関 連 事 項	特定財源の名称					
	【評価・実績】	(実施内容等) 施設管理と愛好者支援	(実施内容等) 施設管理と愛好者支援	(実施内容等) 施設管理と愛好者支援 ガス窯修繕	(実施内容等) 施設管理と愛好者支援	(実施内容等) 施設管理と愛好者支援 ペーパライザー更新 ～H28繰越分1,972千円
	※事務事業評価結果	B-継続/現状維持	A-継続/現状維持	A-継続/現状維持	A-継続/現状維持	A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 利用者600名	利用者600名	利用者600名	利用者600名	利用者600名
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 112%	105%	108%	28%	332%
	全体達成率 14%	28%	44%	56%	103%	
	備考欄					

事業名	陶芸推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	年間利用者数								
【抱える課題やニーズは】	陶芸工房施設の適切な維持管理と利用の促進。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	良好な施設環境の維持と愛好者(利用者)に対する活動支援。	① 年間利用者数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>600人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>656人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>109.3%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	600人	実績値	656人	達成度	109.3%
目標年度	平成29年度										
目標値	600人										
実績値	656人										
達成度	109.3%										
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	本町における陶芸活動の活性化及び幅広い町民への普及。	② ペーパーライザー更新	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1式</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1式</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	1式	実績値	1式	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	1式										
実績値	1式										
達成度	100.0%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	陶芸工房施設の管理	小規模修繕、消耗品の補充等									
	管理人(3人)の配置	管理人の配置による施設の適切な維持管理、利用者への指導									
	ペーパーライザー更新(平成28年度からの繰越事業)	ガス強制気化装置1基取替、自動切替装置を含むガス配管、バルブの取替									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	本町における陶芸は、栃木県益子町との地域間交流の一環として町が主導で進めてきた経緯があり、現在では本町の芸術文化活動のひとつとして定着していることから、今後も継続して支援する必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	適切な施設管理と設備更新により、愛好者の活動に支障をきたすことなく、良好な施設環境を維持することができた。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	指導体制の定着により利用者数も目標に到達している他、作陶技術の向上も図られている。
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	施設の人件費及び維持管理費は最低限の予算で賄われており、設備更新についても指名競争入札により受注業者を決定していることから、効率的である。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	施設の維持管理経費については町が負担しているが、陶芸活動に関する経費については利用者が負担しており、適切な受益者負担があることから公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
本町における陶芸活動は、長期にわたる地道な活動により町民に定着しており、また、老朽化している設備の更新により、適切な施設の維持管理が図られた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
現状は適切な管理・運営が行われており、一定の利用者もある施設であるが、より幅広い町民への普及のため、愛好者の自主的な活動を今後も支援していく必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020210

政策目標	3 のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	14 芸術・文化の振興	事業優先度	B	
単位施策	2 芸術・文化活動の促進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	社会教育関係団体活動費補助事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	社会教育関係団体の育成		#N/A	
事業目標	社会教育関係3団体への助成	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加 住民協働	無 各団体との事業連携	関係例規・法令名	無	
		関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	雄武町文化連盟 雄武町子ども育成会 雄武町PTA連合会	雄武町文化連盟 (320千円) 雄武町子ども育成会 (230千円) 雄武町PTA連合会 (100千円)	雄武町文化連盟 (320千円) 雄武町子ども育成会 (230千円) 雄武町PTA連合会 (100千円)	雄武町文化連盟 (320千円) 雄武町子ども育成会 (230千円) 雄武町PTA連合会 (100千円)	雄武町文化連盟 (320千円) 雄武町子ども育成会 (230千円) 雄武町PTA連合会 (100千円)	雄武町文化連盟 (320千円) 雄武町子ども育成会 (230千円) 雄武町PTA連合会 (100千円)
	事業費(千円)	2,600	650	650	650	650
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
実 績 事 業 費	事業費(千円)	3,250	650	650	650	650
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	その他	0				
関 連 事 項	特定財源の名称					
	【評価・実績】	(実施内容等) 雄武町文化連盟 (320千円) 雄武町子ども育成会 (230千円) 雄武町PTA連合会 (100千円)	(実施内容等) 雄武町文化連盟 (320千円) 雄武町子ども育成会 (230千円) 雄武町PTA連合会 (100千円)	(実施内容等) 雄武町文化連盟 (320千円) 雄武町子ども育成会 (230千円) 雄武町PTA連合会 (100千円)	(実施内容等) 雄武町文化連盟 (320千円) 雄武町子ども育成会 (230千円) 雄武町PTA連合会 (100千円)	(実施内容等) 雄武町文化連盟 (320千円) 雄武町子ども育成会 (230千円) 雄武町PTA連合会 (100千円)
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	3団体への助成	3団体への助成	3団体への助成	3団体への助成
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	100%	#DIV/0!	100%	100%
	全体達成率	25%	50%	75%	125%	
	備考欄					

事業名	社会教育関係団体活動費補助事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主査	櫻井 輝久

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	社会教育関係団体	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	3団体への補助	
【抱える課題やニーズは】	人口減による少子高齢化の進行及び時代の推移により、本町の社会教育活動が停滞傾向にある。	指標(指標計算式/解説)	指標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町内の各社会教育団体はいずれも自主財源に乏しいことから、活動費の一部を助成することにより、活発な活動を促す。	① 文化連盟 子ども育成会 PTA連合会	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	文化活動に関わる町民が増えることにより、町民一人ひとりの人生の充実と各団体の活発な活動を通じて、町の活性化が図られる。		目標値	3団体
			実績値	3団体
			達成度	100.0%
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	社会教育関係団体への助成	文化連盟(320千円)、子ども育成会(230千円)、PTA連合会(100千円)		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	本町の社会教育活動を推進する基幹団体に対する補助は、それぞれの活動を通じて町民の交流を深めるとともに、町の活性化にもつながることから、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	各社会教育関係団体は、いずれも自主事業を実施しており、それぞれの実情に即した事業展開を行っている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	事業内容、予算及び決算を精査し、適正な助成を行っていることから、効率性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
/課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	本町の社会教育活動を推進する基幹団体に対する助成であることから、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平/概ね公平	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
/公平でない		

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
各社会教育関係団体は、いずれも自主事業を実施しており、それぞれの分野において本町の社会教育推進に寄与している。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
本町のさらなる社会教育振興のため、各社会教育団体に対する支援を行う本事業は継続していく必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12030010

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	A		
単位施策	4	図書サービスの充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	読書促進事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	5 保健福祉課 8 保育所		
事業指標	町民1人あたり貸出冊数		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
事業目標	町民1人あたり貸出冊数10冊		関係例規・法令名			
住民参加 住民協働	有	読み聞かせ等によるボランティアの活用	関係個別計画名			

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
全体計画 事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	●図書サービスの充実 図書(絵本含)購入 ブックスタート・配本 移動図書館	図書(絵本含)購入 3,400冊 ブックスタート・配本 移動図書館	図書(絵本含)購入 2,500冊 ブックスタート・配本 移動図書館	図書(絵本含)購入 2,500冊 ブックスタート・配本 移動図書館	図書(絵本含)購入 2,500冊 ブックスタート・配本 移動図書館	図書(絵本含)購入 2,500冊 ブックスタート・配本 移動図書館	
	事業費(千円)	21,312	5,150	4,050	4,050	4,012	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	21,312	5,150	4,050	4,050	4,012		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	21,215	5,147	3,970	4,048	4,007	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	21,215	5,147	3,970	4,048	4,007		
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) 図書購入(2,934冊)、絵本購入(469冊) 寄贈図書(79冊) ブックスタート 5回実施、24人に配付 配本～雄武小 年間2,880冊 豊丘小 年間1,450冊 移動図書館 265人利用、378冊貸出 ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 図書購入(2,301冊)、絵本購入(457冊) 寄贈図書(150冊) ブックスタート 5回実施、31人に配付 配本～雄武小 年間2,880冊 豊丘小 年間1,650冊 移動図書館 253人利用、461冊貸出 ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 図書購入(2,338冊)、絵本購入(427冊) 寄贈図書(763冊) ブックスタート 5回実施、32人に配布 配本～雄武小 年間3,120冊 豊丘小 年間1,500冊、沢木小 年間407冊 移動図書館 209人利用、408冊貸出 ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 図書購入2,328冊、絵本購入340冊 寄贈図書309冊 ブックスタート4回実施、21人に配布 配本(年間実績)～雄武小 2,860冊、 豊丘小 1,500冊 移動図書館 129人利用、388冊貸出 ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 図書購入2,323冊、絵本購入341冊 寄贈図書360冊 ブックスタート5回実施、27人に配布 配本(年間実績)～雄武小 2,780冊、 豊丘小 1,500冊 移動図書館 137人利用、493冊貸出 ※事務事業評価結果 B-継続/拡充	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	町民1人あたり貸出冊数10冊	町民1人あたり貸出冊数10冊	町民1人あたり貸出冊数10冊	町民1人あたり貸出冊数10冊	町民1人あたり貸出冊数10冊
		年度達成率	100%	98%	100%	100%	100%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	24%	43%	62%	81%	100%
	備考欄						

事業名	読書促進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育振興課長補佐	石山 英伸

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	利用者(町民)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	図書購入冊数2,500冊、町民1人当たり貸出冊数10冊
【抱える課題やニーズは】	図書の計画的購入、企画展示の開催などにより図書館サービスの向上に努めているが、施設上の制約により図書館の魅力を十分に引き出すことができていない、という課題を抱えている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	利用者のニーズに応じた図書の購入及び蔵書構成により、読書活動の推進や図書館サービスの向上を図る。	① 図書購入冊数	目標年度 目標値 実績値 達成度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	性別や年齢、職業等を問わず幅広い町民を対象とした、地域における暮らしに役立つ情報拠点となり、生涯学習の推進や地域の活性化を図る。		② 1人当たり貸出冊数
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	① 図書購入冊数(絵本含む)	図書購入冊数~2,664冊(目標値対比164冊の増、前年度対比4冊の減)	
	② 年間貸出冊数	年間貸出冊数~33,207冊(前年度対比321冊の増) 年間貸出人数~7,188人(前年度対比196人の増)	
	③ 移動図書館・配本・ブックスタート	ブックスタート~「はじめてのお誕生会」の場で5回実施し、27人に配付。 配本(年間実績)~雄武小学校2,780冊、豊丘小学校1,500冊、計4,280冊を配本。移動図書館~沢木地区 137人・493冊を貸出。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	地域の情報拠点として位置付けられる図書館において、蔵書を充実し図書館利用を促進することは、町民の生涯学習の推進のため必要であり、ひいてはまちづくりを担う人材の育成につながり、地域の活性化に寄与するものである。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	1人当たり貸出冊数は目標達成に至ってはいないが、年間貸出冊数は増加傾向にあり、町民ニーズに応じた図書の整備や蔵書構成、企画展示実施の効果が現れつつある。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	図書購入に係る経費は、図書館に対する町民ニーズに応えるための必要なコストであり、図書購入の際には町民ニーズを踏まえた選書や購入冊数等の精査を行っており、効率的に執行している。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	図書館は町民の誰もが利用できる空間であるとともに、町民のニーズに応じた図書の整備を図っていることから、公平性は保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	B	
	1人あたり貸出冊数は目標達成に至ってはいないが、年間貸出冊数は増加傾向にあり、前年度対比2.3%増となるなど、事業の効果が現れつつある。	

今後の展開方向
(Action)

	継続/拡充	
	蔵書の計画的購入と整理、企画展示の充実等を進め、図書館サービスの更なる向上に努めるとともに、平成30年度は新図書館オープンの前年となることから、プレイベントを実施する。	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12030020

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 平成30年度 図書館建設:504,000千円、完了検査:320千円 工事監理委託:16,200千円、土地購入:2,130千円 外構工事その1(道路・上下水道既設工作物撤去):9,600千円、 外構工事その2(施設周辺整備):14,500千円、 備品購入:80,000千円、図書管理システム(1次導入分):7,000千円 郷土資料展示:28,500千円 平成31年度 外構工事その3(道路舗装、駐車場・施設周辺整備):41,300千円、 移転経費:800千円、図書管理システム(2次導入分):6,500千円	
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	A			
単位施策	4	図書サービスの充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)			
事業名	雄武町図書館建設事業						
事業期間	平成25年度～平成29年度						
事業主体	雄武町						
事業指標	調査、基本計画策定、図書館建設						
事業目標	調査に基づく方向性の確立、1計画、1施設						
住民参加 住民協働	有	行政からの情報発信、住民からの意見の聴取・情報共有			関係例規・法令名		#N/A
			関係個別計画名	有	雄武町図書館整備基本計画		

		全 体 計 画 事 業 内 容	平成 25 年度 事 業 内 容	平成 26 年度 事 業 内 容	平成 27 年度 事 業 内 容	平成 28 年度 事 業 内 容	平成 29 年度 事 業 内 容		
計 画 内 容		<ul style="list-style-type: none"> ●図書館施設のあり方等、整備に向けた調査及びまとめ ●基本計画策定 ●プロポーザル・基本設計委託・実施設計委託 	調査・まとめ	基本計画策定	基本計画策定 建設敷地現況測量業務委託	基本計画策定 プロポーザル実施に向けた準備	プロポーザル 基本・実施設計委託 46,000千円 建築確認・構造計算適合性判定 500千円 郷土資料展示設計 1,100千円 既存施設解体 (H30年度へ繰越) 28,400千円		
	計画事業費	事業費(千円)	78,000	0	0	2,000	0	76,000	
実 績 事 業 費	財 源 内 訳	国庫支出金	0						
		道支出金	0						
		地方債	33,600					33,600	
		その他	0						
		一般財源	44,400			2,000		42,400	
実績事業費	事業費(千円)	77,500	0	0	1,901	0	75,599		
関 連 事 項	特定財源の名称 過疎対策事業債	【評価・実績】	(実施内容等) 「雄武町図書館を考える会」からの提言により、「建設すべき」との方向性が示された。	(実施内容等) 道内図書館の視察を行い、基本計画の内容について検討・整理しているが、完成には至らなかった。	(実施内容等) 基本計画の内容について方向性は定まったものの、建設が1年先送りとなったことに伴い、平成28年度も策定業務に費やして細部まで煮詰めることとした。	(実施内容等) 基本計画の策定業務が完了した。	(実施内容等) 図書館建設及び郷土資料展示の基本・実施設計を完成させ、建築工事に係る構造計算適合性判定及び建築確認申請を行った。既存施設解体工事は3月下旬に着工し、5月下旬に完了予定。※事務事業評価結果 A-継続/現状維持		
			※事務事業評価結果 C-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持			
			前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	調査に基づく方向性の確立	1計画	1施設	1計画	1施設(設計)
			第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	95%	#DIV/0!	99%
				全体達成率	0%	0%	2%	2%	90%
	備考欄								

事業名	雄武町図書館建設事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育振興課長補佐	石山 英伸

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	利用者(町民)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	図書館整備に係る各種設計業務の完了								
【抱える課題やニーズは】	図書館は地域の情報拠点であり、町民の誰もが居心地の良い場所として利用できる空間であるが、現在の図書館は施設が狭小なため、町民ニーズを十分応えることができていない。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	十分な閲覧スペースや学習スペース、蔵書を備えた新たな図書館を整備することにより、地域の情報拠点としての役割を果たし、町民の生涯学習の推進と地域の活性化に寄与することを旨とする。	① 図書館建設及び郷土資料展示に係る基本・実施設計業務	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1施設</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1施設</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	1施設	実績値	1施設	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	1施設										
実績値	1施設										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果＝目的	いつでも、誰でもが気軽に立ち寄れる居心地の良い空間となることにより、幅広い町民のコミュニケーションの場となり、町民の生涯学習の推進と地域の活性化が図られる。	② 建築確認・構造計算適合性判定申請	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1施設</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1施設</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	1施設	実績値	1施設	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	1施設										
実績値	1施設										
達成度	100.0%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	<p>① 図書館建設基本・実施設計業務 建築確認申請、構造計算適合性判定申請</p> <p>② 郷土資料展示基本・実施設計業務</p> <p>③ 図書館建設に係る町民との協働</p>	<p>平成29年5月に6社による指名プロポーザル方式により委託先設計業者の選定を行い、平成30年3月末に設計業務が完了。新図書館の建物本体の詳細が決まった。また、平成30年3月下旬に建物本体の建築に係る申請事務を完了した。</p> <p>平成30年3月下旬に設計業務が完了し、新図書館における郷土資料展示の詳細が決まった。</p> <p>平成29年11月に「新しい図書館を考える町民ワークショップ」を開催し、基本設計に関する町民からの意見・要望等を聴取した。それらの一部を設計内容に反映させた後、平成30年3月に「基本設計に関する町民説明会」を開催し、基本設計の概要を町民に説明した。</p>									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	現図書館が抱える課題解決のため、地域の情報拠点となる新図書館の整備は、町民の生涯学習の推進と地域の活性化のために必要なものであり、行政が推進すべきものである。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	計画どおり一連の設計業務を完了し、新図書館の詳細が決まった。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	建物の基本・実施設計については、6社による指名プロポーザル方式により、コストのみで判断せず、的確かつ魅力的な技術提案を行った設計業者を委託先として選定し、本町の新たなランドマークとなることが期待できる新図書館の設計が完成した。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	図書館は、町民の誰もが居心地の良い場所として利用できる空間であるとともに、新図書館の整備は町民のニーズに応じたものであることから、公平性は保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A	
	指名プロポーザル方式による設計業者の選定を行い、本町の新たなランドマークとなることが期待できる新図書館の設計が完成した。	

今後の展開方向
(Action)

	継続/拡充	
	設計が完成したことから、平成30年度は本体工事及び外構工事を実施する。	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12040001

政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8	子育て・子育ての充実	事業優先度	A		
単位施策	2	「子育て」支援の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	学校給食子育て支援事業		見直し年度			
事業期間	平成27年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	支給対象者数(世帯数、支給対象児童・生徒数)		関係課	#N/A		
事業目標	支給対象者への完全支給		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	有 雄武町子育て支援学校給食費助成金交付要綱		
住民協働			関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	●児童・生徒の保護者に対する学校給食費の助成支援 平成27・28年度：半額助成 平成29年度：全額助成			学校給食費の助成支援(半額) ・小学生189人 ・中学生107人	学校給食費の助成支援(半額) ・小学生189人 ・中学生107人 制度拡充について検討	学校給食費の助成支援(全額) ・小学生 185人 ・中学生 95人
	事業費(千円)	28,860	0	7,425	7,425	14,010
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	7,500				7,500
一般財源	21,360			7,425	7,425	6,510
実 績 事 業 費	事業費(千円)	26,871	0	6,912	6,729	13,230
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	7,500					7,500
一般財源	19,371			6,912	6,729	5,730
特定財源の名称 ふるさと応援基金繰入金	【評価・実績】	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等) 学校給食費の助成支援 ・小学生 137世帯 182人 ・中学生 97世帯 105人 (世帯数については重複あり)	(実施内容等) 学校給食費の助成支援 ・小学生 132世帯 175人 ・中学生 85世帯 99人 (世帯数については重複あり)	(実施内容等) 学校給食費の助成支援 ・小学生 137世帯 182人 ・中学生 77世帯 90人 (世帯数については重複あり)
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/拡充	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
前期計画からの継続	年度目標値			201世帯、296人	201世帯、296人	187世帯、280人
	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	93%	91%	94%
第6期計画への継続	全体達成率	0%	0%	24%	47%	93%
	備考欄					

事業名	学校給食子育て支援事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育振興課長補佐	石山 英伸

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内小中学校に通う児童・生徒の保護者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	助成対象世帯(保護者)数								
【抱える課題やニーズは】	少子化対策及び子育て支援については、児童福祉・医療の分野において各種施策が実施されているが、学校教育の分野においても更なる施策の充実が求められている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	学校給食費保護者負担金について町が助成を行うことにより、子育てに係る保護者の負担感を軽減し、安心して子育てできる環境づくりに寄与する。	① 助成対象世帯(保護者)数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>201人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>201人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	201人	実績値	201人	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	201人										
実績値	201人										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	他の支援制度と併せて本事業を実施することにより、保護者のより一層の負担軽減が図られ、安心して子育てできる環境が創造されるとともに、出産増等による少子化対策も図られる。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	保護者に対する学校給食費負担の軽減	保護者が納入すべき学校給食費負担金の全額を助成した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	総合計画の基本施策において「子育て・子育ての充実」と「学校教育の充実」が掲げられていることに加え、町長公約に掲げる重要政策においても「出産・子育てと高齢者の夢を叶える大胆な経済支援」が挙げられていることから、町の方針に合致する事業である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	助成対象となる全ての保護者に助成を行い、事業目標を達成した。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	学校給食費保護者負担金に対する定率の補助であることから、過度なコストは生じていない。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

概ね公平	判断の理由	助成対象は児童生徒の保護者に限定されるが、人口減少・少子化対策はまちの将来に関わる重要な施策であることから、概ね公平と判断した。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
助成対象となる全ての保護者に助成を行い、事業目標を達成した。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
町の方針に合致する事業であることから今後も継続し、安心して子育てできる環境づくりの創造を目指す。また、町長の所信表明における施策内容を踏まえ、平成29年度から制度を拡充したが、引き続き継続する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12040010

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	B		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	学校給食センター調理業務委託事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	衛生的で安定した給食供給の維持			#N/A		
事業目標	正規調理員数5人		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	●衛生的で安定した給食の供給 給食調理業務の委託	給食調理業務の委託 (長期継続契約2年度目)	給食調理業務の委託 (長期継続契約最終年度)	給食調理業務の委託 (長期継続契約の更新 3年間)	給食調理業務の委託 (長期継続契約2年度目)	給食調理業務の委託 (長期継続契約最終年度)	
	事業費(千円)	75,755	13,734	14,127	17,930	14,982	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	75,755	13,734	14,127	17,930	14,982	14,982	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	72,806	13,734	14,126	14,982	14,982	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	72,806	13,734	14,126	14,982	14,982	14,982	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 給食調理	(実施内容等) 給食調理	(実施内容等) 給食調理	(実施内容等) 給食調理	
	【評価・実績】		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	正規調理員数5人	正規調理員数5人	正規調理員数5人	正規調理員数5人	
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	100%	100%	84%	100%	100%
		全体達成率	18%	37%	57%	76%	96%
	備考欄						

事業名	学校給食センター調理業務委託事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育振興課長補佐	石山 英伸

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内小中学校に在籍する児童生徒及び教職員等	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	学校給食衛生管理基準に基づく安全・安心な学校給食の提供	
【抱える課題やニーズは】	正規調理員の恒久的な確保と、学校給食衛生管理基準に基づく安全・安心な学校給食の提供	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	熟練した正規調理員が恒久的に確保され、衛生管理や調理作業の効率化等において専門的なノウハウが活かされた学校給食の提供体制の確立。	① 正規調理員の数	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	学校給食衛生管理基準の遵守による安全・安心な学校給食の提供を実現することにより給食の質の向上を図り、食育を推進することで、児童・生徒等の心身の健全な発達に寄与する。		目標値	5人
			実績値	5人
			達成度	100.0%
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	調理業務の民間委託	町外調理事業者との委託契約(長期継続契約)により、調理業務を遂行した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	学校給食は、学校設置者の責任において実施すべき性格を有し、また、食育基本法や学校給食法により、給食を教材のひとつとする食育指導が求められることから、行政が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	調理業務に民間企業が持つノウハウや専門性、柔軟性を取り入れることにより衛生管理の充実や給食の質の向上が図られ、期待した効果が得られている。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	長期継続契約に基づく委託コストにより業務が遂行されており、正規調理員も確保できていることから効率性は保たれている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	学校給食の受益者は町内小中学校の児童生徒及び教職員に限定されるが、学校設置者の責任において提供すべきものであり、また児童生徒の心身の健全な発達に寄与していることから、公平であると判断した。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
調理業務の民間委託により、衛生管理や調理作業の効率性が向上し、適正なコストで安全・安心な学校給食を提供する体制が構築された。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
安定的かつ適正なコストによる給食の提供体制を維持するため、引き続き調理業務を民間委託する必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12040021

政策目標	3 のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12 学校教育の充実	事業優先度	A	
単位施策	2 小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	学校給食用非常食配備事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	非常食の配備校	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
事業目標	非常食の配備校5校	関係例規・法令名		
住民参加	無	関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容																																																																										
計 画 内 容	<p>●給食食材配送車及び学校給食配送中の車両の故障・事故、異物混入等による給食提供が不可能とならないよう危機管理対策として、安定した給食提供のため非常食を各学校に配備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雄武小 174食 ・沢木小 23食 ・幌内小 9食 (H27年度まで) ・豊丘小 23食 ・共栄小 17食 ・雄武中 133食 ・調理従事者 7食 	非常食配備6校		非常食配備6校	非常食配備5校	非常食配備5校																																																																										
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">事業費(千円)</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">606</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">282</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">0</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">108</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">108</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">108</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center;">財 源 内 訳</td> <td>国庫支出金</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>道支出金</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">606</td> <td style="text-align: right;">282</td> <td style="text-align: right;">108</td> <td style="text-align: right;">108</td> <td style="text-align: right;">108</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center;">実 績 事 業 費</td> <td>事業費(千円)</td> <td style="text-align: right;">108</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">108</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>国庫支出金</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>道支出金</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">108</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">108</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> </table>	事業費(千円)	606	282	0	108	108	108	財 源 内 訳	国庫支出金	0					道支出金	0					地方債	0					その他	0					一般財源	606	282	108	108	108	実 績 事 業 費	事業費(千円)	108	0	0	108	0	国庫支出金	0					道支出金	0					地方債	0					その他	0					一般財源	108	0	0	108	0				
事業費(千円)	606	282	0	108	108	108																																																																										
財 源 内 訳	国庫支出金	0																																																																														
	道支出金	0																																																																														
	地方債	0																																																																														
	その他	0																																																																														
	一般財源	606	282	108	108	108																																																																										
実 績 事 業 費	事業費(千円)	108	0	0	108	0																																																																										
	国庫支出金	0																																																																														
	道支出金	0																																																																														
	地方債	0																																																																														
	その他	0																																																																														
一般財源	108	0	0	108	0																																																																											
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等) 非常食配備6校	(実施内容等) 非常食配備5校	(実施内容等) 非常食配備5校																																																																										
	【評価・実績】	※事務事業評価結果 C-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持																																																																										
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値 非常食配備校6校		非常食配備6校	非常食配備5校	非常食配備5校																																																																										
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 0%	#DIV/0!	100%	0%	0%																																																																										
	全体達成率 0%	0%	18%	18%	18%																																																																											
	備考欄																																																																															

事業名	学校給食用非常食配備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育振興課長補佐	石山 英伸

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内小中学校に在籍する児童生徒及び教職員等	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	非常食配備校数
【抱える課題やニーズは】	給食配送中の車両の故障や事故、異物混入等により、学校給食の提供が不可能となった場合における危機管理対策の充実。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	学校給食の提供が不可能となった際の非常食の整備。	① 非常食配備校数	目標年度 平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	学校給食の提供が不可能となった場合、非常食を喫食することで授業日課への影響を回避する。		目標値 5校
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	非常食の配備	アレルギー対応の非常食(レトルトカレー)を児童・生徒及び教職員の人数分購入し、町内の各小中学校に配備している。なお、非常食の喫食が必要となる事故が発生しない限り、賞味期限(製造から3年後)を迎える平成30年春まで更新は生じないことから、平成29年度の購入実績は無い。	達成度 100.0%
			②
			目標値 〇〇
			実績値 〇〇
			達成度 #DIV/0!%

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	学校給食の安定的な提供及びその危機管理対策の充実は、実施責任を有する行政が行うべきである。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	計画数量どおりの非常食を各小中学校に配備した。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	平成29年度は非常食の購入を行っていないことから、コストは発生していない。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	受益者は小中学校の児童生徒及び教職員に限られるが、学校給食は学校設置者の責任において提供すべきものであり、給食の提供が不可能となった際の授業日課への影響を回避するための措置であることから、公平と判断した。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画数量どおりの非常食を各小中学校に配備した。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
実施計画上は毎年事業費を計上しているが、非常食の喫食が必要となる事故が発生しない限り、賞味期限(製造から3年後)を迎える平成30年春まで更新は生じない。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12040030

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	学校給食食育推進事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	地場産食材活用数		関係課	#N/A		
事業目標	地場産食材活用数4種類		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ●地場産食材の給食への活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ホタテ ・マス ・サケ ・チーズ ●食育教科書(仮称)の作成・配付 	地場産食材の給食への活用 ※食材の紹介・食の勧め等啓蒙	地場産食材の給食への活用 ※食材の紹介・食の勧め等啓蒙	地場産食材の給食への活用 ※食材の紹介・食の勧め等啓蒙	地場産食材の給食への活用 ※食材の紹介・食の勧め等啓蒙 食育教科書(仮称)の内容検討	地場産食材の給食への活用 ※食材の紹介・食の勧め等啓蒙 食育教科書(仮称)の作成・配付	
	事業費(千円)	754	227	227	100	100	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	754	227	227	100	100		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	297	0	0	100	98	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	297			100	98		
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】						
			※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	地場産食材活用数4種類	地場産食材活用数4種類	地場産食材活用数4種類	地場産食材活用数4種類	地場産食材活用数4種類
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	0%	0%	100%	98%	99%
	全体達成率	0%	0%	13%	26%	39%	
	備考欄						

事業名	学校給食食育推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	新谷 朋人
		評価者 作成者 職氏名	教育振興課長補佐	石山 英伸

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内小中学校に在籍する児童生徒	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	地場産食材活用数								
【抱える課題やニーズは】	学校給食法及び学習指導要領により、食育の一環として学校給食における地場産食材の活用が求められている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	学校給食に地場産食材を活用することにより、新鮮かつ安全・安心な給食を提供するとともに、食材を身近に感じることや自然の恩恵、生産者に対して感謝の気持ちを醸成することにより、食育の推進を図る。	① 地場産食材活用数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>4種類</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>8種類</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>200.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	4種類	実績値	8種類	達成度	200.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	4種類										
実績値	8種類										
達成度	200.0%										
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	地域の特性を生かした食育を推進することにより、地域の食文化への理解が進み、児童生徒の地域に対する関心や愛着が涵養される。	② 食育教科書(仮称)の作成・配付	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1冊</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>0冊</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>0.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	1冊	実績値	0冊	達成度	0.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	1冊										
実績値	0冊										
達成度	0.0%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	雄武漁業協同組合からの無償提供食材の活用	無償提供を受けたホタテ・マス・サケを活用し、6種類の献立による給食提供を行った。									
	北オホーツク農業協同組合からの無償提供食材の活用	無償提供を受けた牛肉とアイスクリームを活用し、3種類の献立による給食提供を行った。									
	町費による地場産食材の活用	雄武産の毛ガニ、チーズ、ふりかけを購入し、5種類の献立による給食提供を行った。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	学校給食法及び学習指導要領において地場産品の活用による食育の推進が規定されていることから、学校設置者である行政の責任において実施すべきものである。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	地元産業団体からの無償提供及び町費により購入した食材の活用により、14種類の献立による給食提供を行い、児童生徒が食材を身近に感じることで、自然の恩恵や生産者に対する感謝の気持ちの醸成に寄与することができた。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	無償提供された食材についてはコストが発生しておらず、町費購入分については予算の範囲内で必要とする量の確保が可能な食材を選定して購入しており、概ね効率的であると判断した。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	地場産食材を活用した食育の推進は、保護者のみならず町民広くに理解されるものであることから、公平性は保たれるものと判断した。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
地元産業団体から無償提供された食材に加え、町費による食材購入を行い、目標とする4種類を上回る8種類の食材の活用を達成したが、退職者の不補充により食育教科書(仮称)の作成には至らなかった。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
無償提供される食材に加え、引続き町費による地場産食材の購入を行い、目標とする4種類の食材を活用した献立による給食提供を通じて食育の推進を図る。		

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止